

教養科目（平成30年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	清水 浩	○	教職必修 栄養大との合同授業(単位互換による) 8・9月開講	
			教養ゼミ	②	30	1	前期				
			キャリア形成支援講座	1	15	1	集中	後藤 和也			
		60040	60041	ライフ・キャリアデザイン (木曜V限)	2	30	1・2	前期			後藤 和也
		60040	60042	〃 (金曜V限)							
	60050	60051	現代社会とキャリア形成 (火曜V限)	2	30	1・2	後期	後藤 和也			
	60050	60052	〃 (木曜V限)								
	主題別科目	60110	60111	心理学 (火曜II限)	2	30	1・2	前期			清水 浩
		60110	60112	〃 (火曜III限)							
		60121		歴史と文学	2	30	1・2	後期			岩原 真代
60130			日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学			
60140			国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学			
60150			現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央			
60160			ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子			
			人間発達論	2	30	1・2	前期	鈴木 一憲			
60190			健康と栄養	2	30	1・2	前期	鈴木 道子			
60200			芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典			
情報リテラシー	60210	60211	情報処理演習 I (水曜II限)	2	30	1・2	前期	鈴木 久美	②	英語英文指定 国語国文指定 社会情報指定 日本史指定 国語国文指定 国語国文・日本史指定 国語国文指定 英語英文指定 社会情報・日本史指定 「情報処理演習II」を受講していることが望ましい 「簿記会計演習」又は「応用情報処理演習II」を受講していることが望ましい	
	60210	60212	〃 (木曜I限)				小池 隆太				
	60210	60213	〃 (水曜III限)				清水 浩				
	60210	60214	〃 (水曜IV限)				中川 恵				
	60210	60215	〃 (金曜I限)				松下 幸生				
	60220	60221	情報処理演習 II (水曜I限)	2	30	1・2	後期	鈴木 久美			
	60220	60223	〃 (木曜I限)				西川 友子				
	60220	60224	〃 (水曜III限)				松下 幸生				
	60220	60225	〃 (火曜I限)				清水 浩				
	60260		応用情報処理演習 I	2	30	1・2	前期	西川 友子			
60270		応用情報処理演習 II	2	30	1・2	前期	伊豆田義人				
60280		応用情報処理演習 III	2	30	1・2	後期	伊豆田義人				
共通基礎科目	外国語	60310	英語一	2	30	1・2	前期	横山 利夫	②	国語国文学科 日本史学科 社会情報学科	
		60320	英語二	2	30	1・2	後期	北山 長貴			
		60330	英語三	2	30	1・2	前期	横山 利夫			
		60340	英語四	2	30	1・2	後期	渡邊真由美			
		60350	英語五	2	30	1・2	後期	三枝 和彦			
		60360	英語六	2	30	1・2	前期	阿部 隆夫			
		60370	英語七	2	30	1・2	後期	松井 真人			
		60380	英語八	2	30	1・2	前期	太田 裕子			
		60390	英語九	2	30	1・2	後期	金子 淳			
		60400	英会話A	2	30	1・2	前期	マーニ・タウ・アコリ			
	60410	英会話B	2	30	1・2	前期	マーニ・タウ・アコリ				
	60420	英会話C	2	30	1・2	後期	マーニ・タウ・アコリ				
	60430	英会話D	2	30	1・2	後期	マーニ・タウ・アコリ				
			海外語学実習	3	90	1	集中	英文専任教員			
	60451		異文化理解実習	2	60	2	集中	英文専任教員			
	60460	60461	フランス語一 (月曜II限)	2	②	30	1・2	前期	石田 雄樹		
	60460	60462	〃 (月曜IV限)								
	60470	60471	フランス語二 (月曜II限)	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60470	60472	〃 (月曜IV限)								
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹			
60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹				
60500	60501	中国語一 (月曜III限)	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60500	60502	〃 (月曜IV限)					齋藤 知広				
60500	60503	〃 (月曜II限)					解 澤春				
60500	60504	〃 (月曜III限)					解 澤春				
60510	60511	中国語二 (月曜III限)	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				
60510	60512	〃 (月曜IV限)					齋藤 知広				
60510	60513	〃 (月曜II限)					解 澤春				
60510	60514	〃 (月曜III限)					解 澤春				
60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広				
60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広				

教養科目（平成30年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		〔 英語英文学科 〕
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）							
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	石田 雄樹		
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）							
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹		
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）							
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）							
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広		
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）							
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）							
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）							
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広		
			海外語学実習	3	90	1	集中	英文専任教員		
	60451	異文化理解実習	2	60	2	集中	英文専任教員			
保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間浩介	②	個人種目スポーツ
	60620		スポーツ実技二							
	60630		スポーツ実技三							
	60640		スポーツ実技四							
	60650		スポーツ実技五							
	60660		スポーツ実技六							
	60670		スポーツ実技七							
	60680		スポーツ実技八							
	60690		スポーツ実技九							
	60700		スポーツ実技十							
	60710		健康理論 ※1							
60720		スポーツ文化論 ※1	2	30	1・2	後期	比留間浩介			

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

※1 「健康理論」及び「スポーツ文化論」は卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養科目（平成31年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	摘要	
教養教育科目	総合	60010	総合教養講座	2	30	1・2	後期	清水 浩		授業コード別掲 8・9月開講	
		65000	別掲 教養ゼミ	②	30	1	前期	(別掲)			
		60031	キャリア実践講座	1	15	1	集中	後藤 和也			
		60040	60041 ライフ・キャリアデザイン (木曜V限)	}	2	30	1・2	前期			後藤 和也
		60040	60042 " (金曜V限)								
		60050	60051 現代社会とキャリア形成 (火曜V限)	}	2	30	1・2	後期			後藤 和也
	60050	60052 " (木曜V限)									
	主題別科目	60110	60111 心理学 (火曜II限)	}	2	30	1・2	前期	清水 浩	○ 教職必修 栄大との合同授業(単位互換による) 8・9月開講	
		60110	60112 " (火曜III限)								
		60121	歴史と文学	2	30	1・2	後期	岩原 真代			
		60130	日本国憲法	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60140	国際関係論	2	30	1・2	後期	堀田 学			
		60150	現代社会論	2	30	1・2	集中	坂口 奈央			
		60160	ジェンダー論	2	30	1・2	前期	山田彩起子			
		60190	健康と栄養	2	30	1・2	前期	鈴木 道子			
		60200	芸術学	2	30	1・2	前期	石澤 靖典			
		情報リテラシー	60210	60211 情報処理演習Ⅰ (水曜II限)	}	2	30	1・2	前期		鈴木 久美
	60210		60212 " (木曜I限)	小池 隆太							
	60210		60213 " (水曜III限)	清水 浩							
60210	60214 " (水曜IV限)		中川 恵								
60210	60215 " (金曜I限)		松下 幸生								
60220	60221 情報処理演習Ⅱ (水曜I限)		}	2	30	1・2	後期	鈴木 久美			
60220	60223 " (木曜I限)							西川 友子			
60220	60224 " (水曜III限)							松下 幸生			
60220	60225 " (火曜I限)							清水 浩			
60260	応用情報処理演習Ⅰ							2	30	1・2	前期
60270	応用情報処理演習Ⅱ		2	30	1・2	前期	伊豆田義人				
60280	応用情報処理演習Ⅲ		2	30	1・2	後期	伊豆田義人				
共通基礎科目	外国語		60310	英語一	}	2	30	1・2	横山 利夫	② 国語国文学科 日本史学科 社会情報学科	
		60320	英語二	北山 長貴							
		60330	英語三	横山 利夫							
		60340	英語四	渡邊真由美							
		60350	英語五	三枝 和彦							
		60360	英語六	阿部 隆夫							
		60370	英語七	松井 真人							
		60380	英語八	太田 裕子							
		60390	英語九	金子 淳							
		60400	英会話A	マニ・タウ・アコリ							
		60410	英会話B	マニ・タウ・アコリ							
		60420	英会話C	マニ・タウ・アコリ							
		60430	英会話D	マニ・タウ・アコリ							
	60451	異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員				
	60460	60461 フランス語一 (月曜II限)	}	②	30	1・2	前期	石田 雄樹			
	60460	60462 " (月曜IV限)									
	60470	60471 フランス語二 (月曜II限)	}	2	30	1・2	後期	石田 雄樹			
	60470	60472 " (月曜IV限)									
	60480	フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹				
	60490	フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹				
	60500	60501 中国語一 (月曜III限)	}	2	30	1・2	前期	齋藤 知広			
	60500	60502 " (月曜IV限)						齋藤 知広			
	60500	60503 " (月曜II限)						解 澤春			
	60500	60504 " (月曜III限)						解 澤春			
	60510	60511 中国語二 (月曜III限)	}	2	30	1・2	後期	齋藤 知広			
	60510	60512 " (月曜IV限)						齋藤 知広			
60510	60513 " (月曜II限)	解 澤春									
60510	60514 " (月曜III限)	解 澤春									
60520	中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広					
60530	中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広					

教養科目（平成31年度入学生用）

	科目コード	授業コード	科目名	単位	時数	学年	開講	担当教員	教職必修	概要
共通基礎科目	60460	60461	フランス語一（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		〔 英語英文学科 〕
	60460	60462	〃（月曜Ⅳ限）							
	60470	60471	フランス語二（月曜Ⅱ限）	2	30	1・2	後期	石田 雄樹		
	60470	60472	〃（月曜Ⅳ限）							
	60480		フランス語三	2	30	1・2	前期	石田 雄樹		
	60490		フランス語四	2	30	1・2	後期	石田 雄樹		
	60500	60501	中国語一（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		
	60500	60502	〃（月曜Ⅳ限）							
	60500	60503	〃（月曜Ⅱ限）							
	60510	60511	中国語二（月曜Ⅲ限）	2	30	1・2	後期	齋藤 知広		
	60510	60512	〃（月曜Ⅳ限）							
	60510	60513	〃（月曜Ⅱ限）							
	60510	60514	〃（月曜Ⅲ限）							
	60520		中国語三	2	30	1・2	前期	齋藤 知広		
	60530		中国語四	2	30	1・2	後期	齋藤 知広		
60451		異文化理解実習	2	60	1・2	集中	英文専任教員			
保健体育	60610		スポーツ実技一	1	30	1・2	前期	比留間浩介	②	個人種目スポーツ 個人種目スポーツ 団体種目スポーツ 団体種目スポーツ レクリエーション・スポーツ レクリエーション・スポーツ フィットネス フィットネス 8・9月開講 冬季開講予定
	60620		スポーツ実技二							
	60630		スポーツ実技三							
	60640		スポーツ実技四							
	60650		スポーツ実技五							
	60660		スポーツ実技六							
	60670		スポーツ実技七							
	60680		スポーツ実技八							
	60690		スポーツ実技九							
	60700		スポーツ実技十							
	60710		健康理論 ※1							
	60720		スポーツ文化論 ※1							

(注) ○数字は必修単位、)○数字は選択必修単位

「授業コード」がある場合、同じ科目名の授業の中から1つのみ選択できる

※1 「健康理論」及び「スポーツ文化論」は卒業要件のスポーツ実技の単位に含まれないので注意すること

教養ゼミ 授業コード

学科	科目コード	授業コード	担当教員
国語国文	65000	65011	馬場 重行
	65000	65012	高橋 永行
	65000	65013	山本 淳
	65000	65014	佐々木紀一
	65000	65015	岩原 真代
	65000	65016	村瀬 桃子
	65000	65017	北口己津子
	65000	65018	後藤 和也
	65000	65019	岡 英里奈
英語英文	65000	65021	北山 長貴
	65000	65022	阿部 隆夫
	65000	65023	松井 真人
	65000	65024	横山 利夫
	65000	65025	畑田 秀将
	65000	65026	渡邊真由美
	65000	65027	小林 亜希

学科	科目コード	授業コード	担当教員
日本史	65000	65031	園部 寿樹
	65000	65032	小林 文雄
	65000	65034	布施 賢治
	65000	65035	原 淳一郎
	65000	65036	山田彩起子
	社会情報	65000	65041
65000		65042	亀ヶ谷雅彦
65000		65043	伊豆田義人
65000		65044	小池 隆太
65000		65045	鈴木 久美
65000		65046	松下 幸生
65000		65047	西川 友子
65000		65048	比留間浩介
65000		65049	中川 恵

※指定学年（1学年）以外の者が「教養ゼミ」の再履修を要する場合は、別途指示する

講義科目名称：総合教養講座（60010）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	受講生のキャリア形成の一助として本講座を開講する。 多彩な講師による実践的かつ専門性に基づいた話を幅広く聞くことによって、教養を高め、物の見方、捉え方をより豊かなものにし、将来の進路はもとより、人としての行い方や生き甲斐等について深く考えることを目標とする。
授業計画	別途掲示
授業概要	学外の講師により、各回完結型の講義を行う。講義内容は各回担当者によって多岐にわたるが、その道の専門家としての貴重な見解が聴取できる。また、この科目は地域貢献事業の一環として、広く県民の方々にも公開される。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	必要に応じて、資料等を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	各界の現場で活躍する方々を講師として、毎回設定します。実社会での生の話が伺える貴重な機会ですので、なるべく多くの学生の履修を希望します。
評価方法	課題レポート30%、授業への参加度70%。 レポート課題は、12月中に掲示または印刷物配布をもってお知らせいたします。
参考文献	各回の講師とテーマは、後期開始直前に本学ホームページに掲載します。
備考	

講義科目名称：キャリア実践講座（60031）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1	1	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>1 現在の学生生活と将来の職業生活の橋渡しとなる「キャリア」について、就職活動への支援を中心にアクティブラーニング形式を用いて学ぶ授業です。</p> <p>2 知っているようで意外とわからない「自分」の興味関心や強み・弱み、価値観等について、適切な自己理解（自己分析）をとおして明確にすることを一つの目標とします。</p> <p>3 自己理解（自己分析）をとおして、より自分の興味関心に即した仕事について知り、就業意識を高めると同時に、4年制大学への編入も含めた今後のキャリア形成について洞察を深めます。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「よりよく人生を生きるために」</p> <p>第2回 自分を知る方法</p> <p>第3回 自己理解・自己分析</p> <p>第4回 就職と仕事と人生の関係</p> <p>第5回 業界を知る、会社を知る</p> <p>第6回 エントリーシートについて</p> <p>第7回 面接について・会社が学生に求めるもの</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	<p>自己理解・自己分析（質問に答えることにより自分を見つめる）、業界・企業研究、企業へのアプローチの仕方、採用試験の受け方 ※日程など受講に関する詳細は開講前に掲示します。 講師：（株）キャリアクリエイト 浅野えみ氏</p>
実務経験及び授業の内容	講師は人材派遣・キャリア形成支援の実務家であり、実社会での知見を活かした教育を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方・考え方を整理すること
テキスト	適宜プリントを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	◆自己理解・自己分析により生き方を見つめる講座です。 就職希望者だけでなく編入学希望者も受講してください。（4年制大学に編入学した年（3年生）から、すぐに就職活動が始まります）
評価方法	授業への参加態度（グループワークでの発言並びに都度作成を指示する成果物の質等）30% 授業中に指示する課題70% で評価します。
参考文献	
備考	

講義科目名称：教養ゼミ（65000）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
本学専任教員			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>入学初年度の学生に対してスタートアップスキル養成のための授業として開講する。到達目標は以下二点である。</p> <p>1. 教員と学生、あるいは学生同士の人格的な交わりを通して、大学における学修と高校までの勉学との違いを理解し、大学で学ぶことの意味を自覚できる。</p> <p>2. 自分を表現する能力、発表能力、文章作成能力などを高め、また、短大の2年間の自発的な学修意欲を高められる。</p>
授業計画	－
授業概要	<p>本学の全専任教員が分担して、所属学科の10名程度の学生を相手に少人数授業を行う。授業は「学生主体型」で進められ、グループ討議、ディベート、実験、社会調査、施設めぐり、など様々な学修形態が取り入れられている。</p> <p>全体テーマは「自分と出会う」「社会と出会う」であり、具体的な授業計画は担当教員が決定する。なお、担当教員ごとのテーマは【教養ゼミのテーマ<科目コード>】のページを参照されたい。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	担当教員が指示する。
テキスト	開講時に担当教員が指示する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>教養ゼミは、短大生活に対する新入生の期待や勉学への意気込みを萎えさせることなく、新入生の学修意欲を高め、それを持続させていくために設けられた科目です。この科目を通じて学友や教員と出会い、また、本学での授業や生活に慣れて、今後の学びにつなげるようにしてください。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート、授業への参加度、授業形態などで評価する。 ・具体的な評価方法は担当教員が決定する。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学生時代に育むべき「キャリア」観について考える授業です。ライフステージの理解などの自己理解を探究しつつ、今後のキャリア形成に必要なジェネリック・スキルの習得を目指します。具体的には①「他者の話に注意を傾けて聞くことができる」②「自分の考えを整理して相手に分かりやすく伝えることができる」ことを到達目標とします。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「人生100年時代を見据えたキャリアデザインとは」</p> <p>第2回 コミュニケーション能力</p> <p>第3回 自己効力・モチベーション</p> <p>第4回 チーム・リーダーシップ</p> <p>第5回 意思決定</p> <p>第6回 キャリアにおける偶然性</p> <p>第7回 メンター・発達のネットワーク</p> <p>第8回 適性・キャリアアンカー</p> <p>第9回 自分自身を俯瞰的に見る①（R-SHIP2 Campusの受検会）</p> <p>第10回 目標設定</p> <p>第11回 ライフプランニング（お金と人生設計）</p> <p>第12回 自分自身を俯瞰的に見る②（R-SHIP2 Campus受検結果解説会）</p> <p>第13回 役割を担いながら「生きる」①（映画「生きる」から学ぶ）</p> <p>第14回 役割を担いながら「生きる」②（映画「生きる」から学ぶ）</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>
授業概要	社会的・職業的自立に向けて有用なジェネリックスキル（いわゆるコミュニケーション能力など）を養うため、グループワークやディスカッション等を多く織り交ぜながら授業を行います。従って、自分の考えや意見を発表したり、グループで情報共有を行ったりする機会が多い授業となります。
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）等の実務経験を持つ教員がその知見を活かし学生におけるキャリア教育の授業を行う。
時間外学習	毎回の授業で取り上げる問題について、自分の見方・考え方を整理すること。
テキスト	国立大学法人小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編「自分と仕事を考えるヒント1大学ノムコウ」日本経済評論社 価格 ¥1,944（本体¥1,800）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動等を指導するものではありません。皆さんが近い将来社会人となってから力強くキャリアを形成していくために必要な知識や技能を習得するための授業です。ただし、必要に応じて担当教員の人事・採用の実務経験から得た知見を紹介したり、特定分野の実務家をゲストスピーカーとしてお招きしたりしますので、結果的に就職活動等に役立つ情報やスキルは得られるものと考えます。特に人の話を聴いたり自分の意見や考えを発表することを通して体感的に学びを深めることを予定していますので、積極的に参加いただくことを希望します。
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、アンケートへの協力等）40%、毎授業後のリアクションペーパーの記載内容40%、最終レポート等の記載内容等20%により評価する
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
後藤 和也			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	学生時代に育むべき「キャリア」観について考える授業です。職場を中心とした社会への理解を深めながら、今後のキャリア形成に必要なジェネリック・スキルの習得を目指します。具体的には①「課題に対して自分なりに情報を集めることができる」②「自ら情報発信するなどチームへの貢献を考えて行動できる」ことを到達目標とします。		
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション「私たちが元気に社会で活躍するために必要なこと」</p> <p>第2回 多様な働き方</p> <p>第3回 アルバイトの課業分析</p> <p>第4回 職業の世界を知る（ハローワークインターネットサービスの活用方法）</p> <p>第5回 社会人インタビュー情報から学ぶ</p> <p>第6回 就労相談ケーススタディ</p> <p>第7回 契約と労働条件</p> <p>第8回 働きすぎと心身の健康</p> <p>第9回 ライフコースとワークライフバランス</p> <p>第10回 自分自身を俯瞰的に見る①（R-SHIP2 Campusの受検会）・「ロールモデルと語る」への準備</p> <p>第11回 労働トラブル事例と労働法</p> <p>第12回 就職率・離職率や労働市場に学ぶ・職業訓練について学ぶ</p> <p>第13回 自分自身を俯瞰的に見る②（R-SHIP2 Campus受検結果解説会）</p> <p>第14回 ロールモデルと語る（企業人事担当者等を招いての職業人講話・パネルディスカッション）</p> <p>第15回 授業全体のまとめ</p>		
授業概要	社会的・職業的の自立に向けて有用なジェネリックスキル（いわゆるコミュニケーション能力など）を養うため、グループワークやディスカッション等を多く織り交ぜながら授業を行います。従って、自分の考えや意見を発表したり、グループで情報共有を行ったりする機会が多い授業となります。		
実務経験及び授業の内容	人事・採用・人材育成（企業内キャリア形成）の実務経験を持つ教員が、その知見を活かして学生におけるキャリア教育を行う授業です。		
時間外学習	毎回の授業で取り上げられる問題について、自分の見方や考え方を整理すること。		
テキスト	その都度プリント等を配布します		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	本授業は直接的に就職活動等を指導するものではありません。皆さんが近い将来社会人となってから力強くキャリアを形成していくために必要な知識や技能を習得するための授業です。ただし、必要に応じて担当教員の人事・採用の実務経験から得た知見を紹介したり、企業等の人事担当者をゲストスピーカーとしてお招きしたりしますので、結果的に就職活動等に役立つ情報やスキルは得られるものと考えます。労働社会の現状を調べたり自分とは異なる価値観に触れる機会が多くありますので、積極的に参加いただくことを希望します。		
評価方法	授業への貢献度（議論の参加態度やグループ内での役割、授業中の発言・質疑の内容、アンケートへの協力等）40%、毎授業後のリアクションペーパーの記載内容40%、最終レポート等の記載内容等20%により評価する		
参考文献			
備考	授業内容に応じて使用教室を変更する場合があります。その場合当該授業前、又は掲示板にて周知します。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	1. 心理学の基本的な事項を実際的な体験を通して習得することをねらう。 2. 心理学を身近に感じることで、より深い人間理解へつなげる
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 恋愛心理・犯罪心理 第3回 人間の感覚と知覚 第4回 心理学実験体験（錯視） 第5回 学習と記憶 第6回 イメージの測定 第7回 自分自身を知ろう（エゴグラム体験） 第8回 乳幼児の心理 第9回 児童の心理 第10回 青年の心理 第11回 親の心理 第12回 高齢者の心理 第13回 障害児者の心理(特性理解) 第14回 障害者の心理(エピソードから学ぼう) 第15回 授業のまとめ
授業概要	人間の感覚・知覚を取り上げる。次にコミュニケーションゲームを通して、人間関係の構築・維持に役立つスキルやストレスマネジメントを体験的に理解します。その上で、パーソナリティの心理学的な捉え方を取り上げ、自分自身の理解も試みます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	定期的にレポートを課すので、期日までに取り組み提出すること。
テキスト	適宜資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の興味を引くように身近な事例を多く取り入れながら講義を進めていきます。ほぼ毎回コメントを求めますので、講義には積極的に臨むようにしてください。
評価方法	コメント（50%）、試験及びレポート（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：歴史と文学（60121）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
岩原 真代			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	『大鏡』を通して平安時代の歴史と文学の関係性と意義を理解する。史実や人物像を多角的にとらえる視点を養う。
授業計画	<p>第1回 『大鏡』概説</p> <p>第2回 『大鏡』序文①</p> <p>第3回 『大鏡』序文②</p> <p>第4回 帝紀－平安時代の天皇達－（文徳天皇～光孝天皇）</p> <p>第5回 帝紀（宇多天皇～円融院）</p> <p>第6回 帝紀（花山院～後一条院）</p> <p>第7回 大臣列伝－藤原摂関家と周辺の人物達－（左大臣冬嗣～太政大臣基経）</p> <p>第8回 大臣列伝（左大臣時平～左大臣仲平）</p> <p>第9回 大臣列伝（太政大臣忠平～左大臣師尹）</p> <p>第10回 大臣列伝（右大臣師輔～太政大臣兼通）</p> <p>第11回 大臣列伝（太政大臣為光～太政大臣公季）</p> <p>第12回 大臣列伝（太政大臣兼家～右大臣道兼）</p> <p>第13回 大臣列伝（太政大臣道長）</p> <p>第14回 藤原氏の物語</p> <p>第15回 昔物語</p>
授業概要	平安時代後期の歴史物語『大鏡』を輪読しながら、史実の諸相と人物造型を多角的に理解する。藤原摂関家に対して批判的な視座を持つ『大鏡』と好意的な『栄花物語』の表現の比較、古記録等の記事との差異を確認し、史実と虚構の間を読み解く。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	事前に担当場面の読み込み、要約、要点確認をして授業に臨んで下さい。
テキスト	石川徹校注『新潮日本古典集成 大鏡（新装版）』新潮社、定価2700円
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	平安時代の文学作品を読む場合、歴史的な事実や事件の背景を知ることが大切です。また、歴史がどのように語られ、変容するかを確かめることで多角的な理解が深まります。積極的な読みに参加して下さい。
評価方法	授業への参加の度合い（20%）、レポート（80%）等を以て評価する。
参考文献	『新編日本古典文学全集 大鏡』小学館 保坂弘司著『大鏡全評釈 上・下』學燈社
備考	

講義科目名称：日本国憲法（60130）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職必修
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 日本国憲法は、人権と統治に分かれます。人権では、「表現の自由」や「社会権」などの問題に関連し、統治では国会や内閣、裁判所がその対象となります。憲法は遠い存在のように思えますが、実は身近な事象に関連するものでもあります。この講義では、日本国憲法の全体像をとらえ、自ら考え、答えを導けるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 日本国憲法の構造を理解する。 2. 憲法の規定に則って統治機構が動いていることを理解する。 3. 人権概念を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 憲法の基礎</p> <p>第2回 参政権</p> <p>第3回 国会</p> <p>第4回 内閣</p> <p>第5回 裁判所</p> <p>第6回 象徴天皇制</p> <p>第7回 平和主義</p> <p>第8回 人権総論 1（人権の理念と歴史）</p> <p>第9回 人権総論 2（人権の享有主体性）</p> <p>第10回 信教の自由と政教分離</p> <p>第11回 表現の自由</p> <p>第12回 経済的自由</p> <p>第13回 人身の自由</p> <p>第14回 社会権</p> <p>第15回 幸福追求権</p>
授業概要	<p>日本国憲法は、最高法規であるため様々な法律にもその理念が生きています。日本国憲法は、身近な生活にもその理念は活かされています。この授業では、日本国憲法の意義と課題について考えていきます。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>配布したレジュメ等を授業が終わってから見直し、知識の定着を図ること。また、新聞やニュースを毎日チェックし、社会の動きに敏感になること。</p>
テキスト	<p>駒村圭吾編『プレステップ憲法(第2版)』弘文堂、2018年</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>自分の手を動かし書くことで理解も深まりますので、板書も多くしたいと思います。また、日々刻々と変化する社会の動きを把握するためにも、新聞やニュースに積極的に触れるようにしてください。</p>
評価方法	<p>期末試験（100%）</p>
参考文献	
備考	

講義科目名称：国際関係論（60140）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
堀田 学			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈授業のテーマ〉 この講義では、政治・経済・社会など多面的な側面から世界で起こっている様々な事象を理解し、考察できるようになることをめざします。</p> <p>〈到達目標〉 1. 国際関係論の理論を理解する。 2. グローバルな課題を理解する。 3. 国際問題を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 国際関係論とは何か</p> <p>第2回 20世紀の国際関係1（2つの世界大戦と国際関係）</p> <p>第3回 20世紀の国際関係2（冷戦時代の国際関係）</p> <p>第4回 20世紀の国際関係3（ポスト冷戦時代の国際関係）</p> <p>第5回 現代の国際関係（9・11以降の国際関係）</p> <p>第6回 国際関係理論1（リアリズム）</p> <p>第7回 国際関係理論2（リベラリズム）</p> <p>第8回 国際機関</p> <p>第9回 欧州統合</p> <p>第10回 民族紛争・宗教対立</p> <p>第11回 環境問題</p> <p>第12回 食糧問題</p> <p>第13回 安全保障</p> <p>第14回 日本外交</p> <p>第15回 これからの国際関係</p>
授業概要	<p>現代の国際社会は、グローバル化が進行する一方で、反グローバル化の動きやポピュリズムの台頭なども世界各地で起こっています。この授業では多角的な視座から世界を見ることができるよう知識を得ることを目標とします。</p>
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>新聞やニュースを毎日チェックし、国際問題に関する知識を深め、関心を持ってください。</p>
テキスト	<p>村田晃嗣ほか編『国際政治学をつかむ（新版）』有斐閣、2015年</p>
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>ニュースや新聞などの国際面を読んで、刻々と変わる国際情勢の把握に努めてください。</p>
評価方法	<p>期末試験（100%）</p>
参考文献	<p>佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論（第2版）』弘文堂、2016年 滝田賢治ほか編『国際関係学（第2版）』有信堂、2017年</p>
備考	

講義科目名称：現代社会論（60150）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択
担当教員			
坂口 奈央			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	現代社会がどのような構造になっているのか、その特徴を理解するとともに、社会や社会問題に対する関心を高め、自分なりの見解をもつこと。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 「現代社会」では今、何が起きているのか 例) 生活や仕事の不安定さ、激しい競争、見て見ぬふりなどその背景にあるものは何か</p> <p>第3回 労働と社会</p> <p>第4回 監視社会</p> <p>第5回 グループディスカッション</p> <p>第6回 地域社会① 地域づくりは人づくり</p> <p>第7回 地域社会② ソーシャルキャピタル</p> <p>第8回 地域社会③ 地方に未来はあるか</p> <p>第9回 地域社会④ 本当に地方消滅はあるのか</p> <p>第10回 グループディスカッション</p> <p>第11回 災害と社会① 災害は社会が引き起こす</p> <p>第12回 災害と社会② レジリエンスとは何か</p> <p>第13回 災害と社会③ ボランティアのあり方</p> <p>第14回 災害と社会④ 「復興」とは何かを考える</p> <p>第15回 レポート作成</p>
授業概要	日常の中に埋もれがちな身近なテーマをもとに、現代の日本社会が、どのように形成されているのか、社会的問題は何かなどを、社会学の観点から紹介する。
実務経験及び授業の内容	授業担当者は、元民放テレビ局報道部ならびにアナウンサー経験が13年ある。この実務経験を生かして、授業では、グループディスカッションとそこから学生自らが紡ぎだした知見と考えを、より新たな学びへの契機へと昇華させていく。
時間外学習	新聞記事を読み、今の社会の流れを自分なりにとらえるトレーニングを日々積み重ねてください。
テキスト	指定テキストなし。資料は別途配布。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	テーマをもとにこれからの日本社会がどうなっていくのか、他人ごとにならず、創造力を高めるため、積極的なディスカッションの場を設ける。これは、他者に説得力をもって話すことができる力を身につけられる狙いからである。なお、遅刻は認めません。
評価方法	授業内に3～4回実施する課題小レポート、授業内での発言内容
参考文献	
備考	

講義科目名称：ジェンダー論（60160）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
山田 彩起子			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	①ジェンダーとは何か、②現在では当然のように存在する男女間の様々な問題の発生原因はどこにあるのか、の2点を理解することを目指します。
授業計画	第1回 ジェンダーとは何か 第2回 男女の分業 第3回 政治とジェンダー 第4回 婚姻とジェンダー 第5回 家制度とジェンダー 第6回 財産とジェンダー 第7回 教育とジェンダー 第8回 穢れとジェンダー 第9回 職業とジェンダー 第10回 異性装 第11回 芸能とジェンダー 第12回 売春 第13回 唐様・和様とジェンダー 第14回 男性の生きづらさ 第15回 まとめ
授業概要	ジェンダーをめぐる問題はいつどのように発生したのか、歴史を遡って講義します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で提示する参考文献の中から関心あるものを見つけ出し、読んでみて下さい。
テキスト	毎回レジュメを配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	学生の理解度をはかるために、毎回質問用紙（要記名）を配布します。
評価方法	期末レポート80%、授業参加度20%(質問用紙によりチェックします)
参考文献	毎回レジュメに記載します。
備考	

講義科目名称：健康と栄養（60190）

授業コード：

英文科目名称：Health and Nutrition

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
鈴木道子、大和田浩子、山田英明、寒河江豊昭、佐塚正樹、金光秀子、山口光枝、江口智美			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	① 「健康」の概念と、健康を維持増進するための「栄養」の重要性を理解する。 ② 現在及び将来の実生活において、健康の維持増進に有用な食生活の実践方法を習得する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・健康と栄養について学ぶ意義 授業の進め方や評価方法について伝えるとともに、健康とは何か、健康づくりの三要素の一つである栄養とは何か、それらを学ぶことでどのように実生活に活かすことができるかを学ぶ。</p> <p>第2回 栄養学の基礎と消化・吸収 「栄養」と「栄養素」の違い、主要な栄養素とその消化・吸収について学ぶ。</p> <p>第3回 栄養と健康の関わり 適切な栄養摂取による健康の維持・増進、疾病予防や治療のほか、低栄養・過栄養による健康リスクについて学ぶ。</p> <p>第4回 生活習慣病と栄養（生活習慣病の概念、生活習慣病と栄養との関わり） 生活習慣病とは何か、特に、肥満（過栄養）との関わりを学ぶ。</p> <p>第5回 生活習慣病と栄養（糖尿病、高血圧症など疾患と栄養） 生活習慣病と栄養の関わりについて、臨床栄養学の視点から学ぶ。</p> <p>第6回 低栄養と健康 栄養素全般の低栄養と個別の栄養素不足について、健康との関係を学ぶ。</p> <p>第7回 日本の食の歴史と地域性（山形県の食を中心に） 日本の食の歴史を概観するとともに、その地域性、特に山形県の食文化について学ぶ。</p> <p>第8回 日本の食の歴史と地域性（全国の食） 受講学生の郷土の食を中心に、日本の地域別食文化について学ぶ。</p> <p>第9回 「おいしさ」と調理の基礎 おいしさとは何か、そのおいしさを生み出す調理の基礎について学ぶ。</p> <p>第10回 食品の機能性と食品表示 食品が有する3機能を学ぶとともに、身近な食品の表示法について学ぶ。</p> <p>第11回 ライフステージごとの栄養（幼児期の栄養） 幼児期の栄養の特色について学ぶ。</p> <p>第12回 ライフステージごとの栄養（学童期・思春期の栄養と時間栄養学） 時間栄養学と学童期・思春期の栄養の特色について学ぶ。</p> <p>第13回 ライフステージごとの栄養（高齢期の栄養） 高齢者の心身の特徴とともに、栄養のあり方について学ぶ。</p> <p>第14回 たばこ・酒と健康 たばこは「百害あって一利なし」の根拠とともに、適正飲酒について学ぶ。</p> <p>第15回 まとめ 健康と栄養について、自らの食生活を振り返るとともに、授業全体を総括する。</p>
授業概要	健康と栄養の基礎的事項を学んだあと、栄養の過不足により生じる健康障害、特に生活習慣病等の疾病と食、食の歴史と食文化、健康の維持増進のために有用な食生活の実践等について学ぶ。なお、栄養・食と健康に関する専門家である米沢栄養大学の教員によるオムニバス授業とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	日頃から、健康や食・栄養に関する情報を、図書や新聞で収集しながら、授業で学んだことを実生活に活かす方策を考え、整理しておくこと。
テキスト	テキスト：使用しない。 必要な資料は、各授業のはじめに配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習・復習の課題を明確にし、教員一人一人の専門性を活かした授業を展開していきたい。
評価方法	授業内ミニテストの合計70% レポート30%
参考文献	参考書：中嶋洋子監修「改訂版 栄養の教科書」（新星出版社）
備考	

講義科目名称：芸術学（60200）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
石澤 靖典			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	美術作品の見方や分析方法を学びます。美術が社会や歴史、文学をはじめとする他の芸術形式とどのような関係にあるかを理解し、作品に対して学問的にアプローチするための手法を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 美術の歴史（概説）</p> <p>第3回 美術の歴史（概説）</p> <p>第4回 美術の歴史（概説）</p> <p>第5回 美術の歴史（概説）</p> <p>第6回 芸術の方法論</p> <p>第7回 芸術の方法論</p> <p>第8回 芸術の方法論</p> <p>第9回 芸術の方法論</p> <p>第10回 芸術の方法論</p> <p>第11回 芸術の方法論</p> <p>第12回 美術作品の分析</p> <p>第13回 美術作品の分析</p> <p>第14回 美術作品の分析</p> <p>第15回 美術作品の分析</p>
授業概要	前半ではおもに西洋の美術作品を例に挙げながら、様式論や図像学、心理学的アプローチなどの方法論を解説し、後半では作品分析を実践するための具体例を提示します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	美術展覧会や関連図書を通じ、日頃から芸術に対する興味・関心を持つこと。
テキスト	とくに教科書は指定しません。参考書については随時授業中に紹介します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業の内容について関心を引くテーマがあれば、自分なりに参考書を読むなどして、さらに知見を深めるとよいでしょう。
評価方法	筆記試験と授業への参加度により評価します。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトのワードの基本的操作を習得します。 ワードが使えるようになったあとでプレゼンテーション用にパワーポイント（プレゼンテーション用ソフト）の基本的操作を習得します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンの起動と終了・メール設定</p> <p>第3回 パソコンの基本操作①：タイピング</p> <p>第4回 パソコンの基本操作②：日本語入力・Wordの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定①：文字の修飾など</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定②：罫線など</p> <p>第7回 表の作成①：表の作成</p> <p>第8回 表の作成②：文字列を表にする・レイアウトと書式設定：ルビなど</p> <p>第9回 印刷・課題①：Wordの基本操作</p> <p>第10回 ビジネス文書①：社内文書</p> <p>第11回 ビジネス文書②：社外文書</p> <p>第12回 図の挿入</p> <p>第13回 課題②：ビジネス文書</p> <p>第14回 パワーポイントの基本操作</p> <p>第15回 課題：総合</p>
授業概要	講義では、毎回、学習テーマを設定し、操作方法を説明しながら一緒に操作練習をしたあと、学習テーマに沿った課題をこなすことで基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	前回までの講義内容は理解できているとして進みます。操作に不安のある方は練習をしておいてください（必要時間30分程度）。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	講義ではパソコンが苦手な人やあまり利用したことのない人を基準に授業を構築しているので、チャレンジしてみませんか？
評価方法	授業内課題（25%×2回）、期末課題（50%）。
参考文献	
備考	1回目の講義には必ず出席すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
小池 隆太			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンとメールソフトの基本操作</p> <p>第3回 タイピング、日本語入力、ファイル操作</p> <p>第4回 ワープロソフトの基本操作</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(1) (文字の修飾など)</p> <p>第6回 レイアウトと書式設定(2) (罫線など)</p> <p>第7回 表の作成(1) (基本)</p> <p>第8回 表の作成(2) (応用)</p> <p>第9回 レイアウトと書式設定(3) (拡張書式設定)</p> <p>第10回 ビジネス文書(1) (社内文書)</p> <p>第11回 ビジネス文書(2) (社外文書)</p> <p>第12回 プレゼンテーションスライドの制作(1) (テーマ設定とアウトライン)</p> <p>第13回 プレゼンテーションスライドの制作(2) (基本操作)</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作(3) (アニメーション効果)</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによるソフトの機能説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で解説した内容に対応する課題を次回までに提出してもらいます。空き時間などを活用して作業することを求めます。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作ることは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。
評価方法	授業内課題 (70%)、期末課題 (30%)
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	主としてワープロソフトの基本的操作を習得します。授業の後半でプレゼンテーション用にパワーポイントの基本的操作を習得します。日商PC検定試験の3級に合格するレベルを目標とします。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 パソコンの基本操作（タイピング／日本語入力、ファイル操作）</p> <p>第3回 Wordの基本操作</p> <p>第4回 レイアウトと書式設定(1)（文字の修飾など）</p> <p>第5回 レイアウトと書式設定(2)（罫線など）</p> <p>第6回 表の作成</p> <p>第7回 レイアウトと書式設定(3)（拡張書式設定）</p> <p>第8回 ビジネス文書(1)（社内文書）</p> <p>第9回 ビジネス文書(2)（社外文書）</p> <p>第10回 図形や図表を使った文書の作成</p> <p>第11回 写真を使った文書の作成</p> <p>第12回 Excelデータを利用した文書の作成</p> <p>第13回 PowerPointの基本操作</p> <p>第14回 プレゼンテーションスライドの制作</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	授業では毎回学習テーマを設定し、まずチュートリアルによる説明とともに操作を練習した後、対応する課題演習を行い、基本的操作を習得できるようにします。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	「コンピュータは苦手」という方でも定式化されたやり方で文書作成を行うことで、ビジネス文書やプレゼンスライドを作ることは困難ではありません。気軽に取り組めるようになりましょう。また、内容がはっきり伝わるように、発声や表現等を工夫して授業を進めます。
評価方法	授業内課題（70%）、期末課題（30%）
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
中川 恵			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この演習では主としてワープロソフトのMicrosoft Wordの基本操作を習得します。このほか、資料添付・ダウンロードの方法、Microsoft Power Pointの基本操作を習得します。		
授業計画	第1回	基本操作の確認(Office 365 の基本動作、電子メール送受信)	
	第2回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書の基本)	
	第3回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書のライティング技術)	
	第4回	文書処理・作成演習 (電子メールのライティング技術)	
	第5回	文書処理・作成演習 (ビジネス図解の基本)	
	第6回	文書処理・作成演習 (ビジネス文書の管理)	
	第7回	文書処理・作成演習 (プレゼンテーション)	
	第8回	中間まとめ	
	第9回	資料処理・作成演習 (Excelデータを利用した文書の作成)	
	第10回	資料処理・作成演習 (Powerpointを利用した文書の作成)	
	第11回	資料処理・作成演習 (Office365の諸機能)	
	第12回	資料処理・作成演習 (社内文書の作成)	
	第13回	資料処理・作成演習 (社外文書の作成)	
	第14回	資料処理・作成演習 (プレゼンテーションの作成)	
	第15回	総まとめ	
授業概要	毎時、演習課題を提示する。講義時間は課題の解説を行ったのちに、課題演習に取り組む。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	各回の課題をクリアできるよう対応すること。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	演習の難易度は日商PC検定3級程度です。文書やプレゼンテーション用の資料の作成スキルは、学生生活を送るうえで不可欠です。本科目では必要な場面で必要に応じた「技」を使えるよう、演習を通じて能力の伸長をめざします。		
評価方法	課題 (100%)		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
松下 幸生			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この演習では主としてワープロソフトのMicrosoft WordおよびMicrosoft Power Pointの基本動作等を習得します。		
授業計画	第1回	基本操作の確認(Office 365 の基本動作、電子メール送受信)	
	第2回	漢字変換とタイピング	
	第3回	記号入力、文章入力、範囲指定、ショートカットキー	
	第4回	文字装飾、箇条書き、及び、ページ設定	
	第5回	表の作成と編集	
	第6回	文字列から表に変換	
	第7回	コメントの作成と差し込み文書	
	第8回	段組み、計算式の入力、及び、ワードアートの基本	
	第9回	ワードアート	
	第10回	地図の作成、及び、スクリーンショットの活用と留意点	
	第11回	スマートアート	
	第12回	グラフの編集	
	第13回	Power Pointの基本操作	
	第14回	Power Point資料の作成	
	第15回	総合演習	
授業概要	毎時、演習課題を提示します。 講義時間は課題に取り組み、解説をおこないます。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	2点あります。 1) ブラインド・タッチ入力。 ブラインド・タッチ入力を身に付けることで、時間外学習の負担が大幅に減ります。 chatや自分の好きな書籍などを通じて、継続的に取り組みましょう。 2) 直感的に操作し難い箇所の復習。 演習中に項目のメモを取り、3回程度は繰り返しましょう。 インターネット検索をつうじて、教材(テキスト・データ)を入手することもお勧めです。		
テキスト	なし		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	情報処理能力は、就職や大学編入後に必要であるのみならず、学生生活を送るうえでもレポート作成や報告の場面で不可欠です。本科目では、必要な場面で必要に応じた「技」を使えるよう、演習を通じて能力の伸長をめざします。演習開始時の難易度は、日商PC検定3級程度です。		
評価方法	演習課題の提出(100%)。		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
鈴木 久美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 表計算の三つの基本機能(集計, グラフ表示, 簡易データベース)を習得する. 2. 関数の働きを理解して計算式を書き表すなど, 考える力と実践的な処理能力を養う.
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 データ入力の基本</p> <p>第3回 表のレイアウト</p> <p>第4回 数式の利用</p> <p>第5回 Sheetのリンク</p> <p>第6回 グラフの作成</p> <p>第7回 印刷・課題①</p> <p>第8回 課題①の解答・データベース</p> <p>第9回 関数①: if関数など</p> <p>第10回 関数②: sumif関数など・集計表</p> <p>第11回 ピボットテーブル</p> <p>第12回 課題②</p> <p>第13回 課題②の解答・第1回～第12回の復習</p> <p>第14回 期末課題</p> <p>第15回 期末課題の解答</p>
授業概要	講義は解説と演習によって構成される. 解説では一緒に操作練習をし, 演習では例題や課題を自分の頭で考えながらこなしていくことで, 表計算を実際の問題の処理に活用する能力を鍛える.
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	予習: 必要ありません. 復習: 学習したことの定着のために必要な方は練習をしてください(必要時間30分程度).
テキスト	資料を配布します.
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	Wordに比べて敷居が高く感じるかもしれませんが, 操作方法はWordに似ています. Excelが使えるようになるとWordよりも表現範囲が増えます. 進学・就職のお供にどうぞ♪
評価方法	確認課題2回(25%×2)と期末課題(50%)で評価します.
参考文献	
備考	1回目の講義には必ず出席すること.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	<p>【授業のテーマ】 オフィスツールとして有用で、ビジネスシーンにて利用頻度の高い表計算ソフトの使い方や機能についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフトウェアを使う上で必須の基本機能（表計算、グラフ作成、関数等）を操作できる。</p>		
授業計画	第1回	<p>ガイダンス</p> <p>各回の授業ではタイピング課題に取り組む。タイピング課題ファイルは所定のフォルダに授業時間内に提出すること。</p>	
	第2回	<p>表計算ソフトウェアとは</p> <p>授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用する。</p>	
	第3回	<p>表計算ソフトウェアの基本的な操作</p> <p>課題1</p>	
	第4回	<p>表を作成してみよう</p> <p>課題2</p>	
	第5回	<p>数式を構築してみよう</p> <p>課題3</p>	
	第6回	<p>関数を扱ってみよう</p> <p>課題4</p>	
	第7回	<p>関数を用いて計算してみよう</p> <p>課題5</p>	
	第8回	<p>関数を用いて状況に応じた計算や処理を行ってみよう</p> <p>課題6</p>	
	第9回	<p>グラフの作り方やグラフの編集の方法を知ろう</p> <p>課題7</p>	
	第10回	<p>いろいろなグラフを作成してみよう</p> <p>課題8</p>	
	第11回	<p>いろいろなグラフを作成してみよう</p> <p>課題9</p>	
	第12回	<p>簡易データベースとして利用してみよう</p> <p>課題10</p>	
	第13回	<p>総合実践</p> <p>課題11</p>	
	第14回	<p>総合実践</p> <p>課題12</p>	
	第15回	<p>まとめ</p> <p>期末課題</p>	
授業概要	<p>実務で利用されることの多いオフィスツールの表計算ソフトの使い方や機能を演習形式で習得し、履修者全員が大学での学びや活動に必要なレベルに到達するとともに、将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身に付ける。</p>		
実務経験及び授業の内容	<p>情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし情報処理演習Ⅱの授業を行う。</p>		
時間外学習	<p>授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として復習課題を課します。これまでの学習内容（例題・課題を含む）のすべてを確認したうえで、各回の復習課題に取り組む期日までに提出してください。</p>		
テキスト	<p>授業中に、適宜、資料を配布する。</p>		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<p>新しい知識や技術の習得は、毎回の授業(演習)を積み重ねていくことにより達成されるものです。授業を欠席しないことはもとより、授業内容を理解し習得できるよう留意して臨んでほしい。また素早いタイピングを行うことはパソコンを利用した情報利活用を行う上で欠かすことはできない。タイピングの練習も真剣に取り組んでほしい。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。</p>		
評価方法	<p>復習課題の得点の合計(10点×12回=120点満点)を45%、授業時間内タイピング課題の得点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、期末課題の得点(100点満点)を40%とし、総合得点60点以上を合格とします。なお授業時間内タイピング課題は授業時間内に指定の提出フォルダに提出されたものを評価対象とします。</p>		
参考文献	<p>図書館にはExcelに関連する本が数多く所蔵されている。</p>		
備考	<p>USBメモリと配布済み資料を毎回持参すること。授業時の座席を指定し、座席表により毎回出欠を取る。</p>		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
松下 幸生			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	実用性の高い操作を含め、Excelの基本的操作を習得します。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 範囲選択と文字列の入力</p> <p>第3回 移動、複写、貼り付け、行列の挿入と削除、オートフィル</p> <p>第4回 四則演算、達成率、累計、前日比、伸び率、絶対参照、相対参照、関数式 (sum)</p> <p>第5回 関数式 (average, max, min, count, counta)</p> <p>第6回 関数式 (round, roundup, rounddown, mod, if)</p> <p>第7回 表の編集、スタイル、条件付き書式</p> <p>第8回 ハイパーリンク、グラフ作成の基礎</p> <p>第9回 グラフ作成の練習</p> <p>第10回 オートフィルター、ウィンドウの分割と固定</p> <p>第11回 フィルター、テキストファイルをExcelで開く、ピボットテーブルの基礎</p> <p>第12回 ピボットテーブルの練習</p> <p>第13回 関数式 (vlookup)</p> <p>第14回 関数式 (datedif, left, right mid, replace)</p> <p>第15回 総合演習</p>
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・操作方法をスクリーンに投影しながら、演習講義を進めていきます。 ・課題は講義直後、及び、講義終了直前に告知します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	<p>2点あります。</p> <p>1) 数値、および、関数式 (ローマ字) のブラインド・タッチ。 テンキー、および、キーボードを使って数値をブラインド・タッチできるようにしましょう。マウス操作の頻度が減少します。</p> <p>2) 直感的に操作し難い項目の復習。 演習中に項目のメモを取り、3回程度は繰り返しましょう。 インターネット検索をつうじて、教材 (統計データ等) を入手することもお勧めです。</p>
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	・電卓やそろばんを使うよりも、Excel計算が楽と感じられるようになる。
評価方法	課題提出 (100%)。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
清水 浩			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では、表計算の基本から活用までについて学習する。 1. 表計算の基本機能(集計、グラフ表示、簡易データベース)を習得する。 2. データの活用方法
授業計画	<p>第1回 基本操作(データ入力)</p> <p>第2回 表の作成</p> <p>第3回 数式の入力</p> <p>第4回 表の印刷</p> <p>第5回 複数シートの操作</p> <p>第6回 グラフの作成</p> <p>第7回 データベースの利用</p> <p>第8回 関数の利用</p> <p>第9回 表作成の活用</p> <p>第10回 グラフの活用</p> <p>第11回 グラフィックの利用</p> <p>第12回 複数ブックの操作</p> <p>第13回 データベースの活用</p> <p>第14回 ピボットテーブルとピボットグラフの作成</p> <p>第15回 総合課題</p>
授業概要	課題を作成しながら表計算ソフトの活用方法を学習する。検定を念頭に置いた応用課題を作成する。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布する。
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	この授業では、表計算ソフトの活用方法を学びます。ゆっくり、基本的な操作から学習していきます。パソコン初心者の方向けのペースと内容になっています。また、内容がはっきり伝わるように、発声や表現等を工夫して授業を進めます。
評価方法	期末課題40%、定期課題40%、授業への参加度20%
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
西川 友子			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	【授業のテーマ】業務データの処理・分析など、将来のビジネスパーソンとして必要な情報リテラシーの素養の基礎を身につける。 【到達目標】日商PC検定試験データ活用2級合格レベル相当の表計算ソフトウェアの操作を行える。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 各回の授業ではタイピング課題に取り組む。</p> <p>第2回 計算処理の基本 授業では表計算ソフトウェアとしてMicrosoft Excelを使用する。</p> <p>第3回 業務で使用される計算式と数値計算 課題1</p> <p>第4回 関数の基本 課題2</p> <p>第5回 関数による業務に必要なデータや値の取得 課題3</p> <p>第6回 関数や計算式を用いた処理の取り扱い 課題4</p> <p>第7回 基本的なグラフの作成 課題5</p> <p>第8回 いろいろなグラフとその作成 課題6</p> <p>第9回 複合グラフとその作成 課題7</p> <p>第10回 ピポットテーブル 課題8</p> <p>第11回 ピポットテーブルを用いたデータの集計 課題9</p> <p>第12回 ABC分析の基礎 課題10</p> <p>第13回 ABC分析の実践 課題11</p> <p>第14回 総合実践 課題12</p> <p>第15回 まとめの試験 日商PC検定試験データ活用2級程度の内容を出題する。試験時間：40分間</p>
授業概要	情報処理演習Ⅱに引き続き、パソコンを利用した情報利活用について、毎回実践的に演習していくことにより将来のビジネスパーソンとしての素養の基礎を身につける。そしてビジネスシーン等を意識した課題に取り組むことで「情報リテラシー」をさらに磨いていく。なお情報処理演習Ⅱで学んだ内容・技能は既に知っているのものとして演習を進める。
実務経験及び授業の内容	情報システム開発の実務経験があり、この経験を生かし応用情報処理演習Ⅰの授業を行う。
時間外学習	授業内容を深く理解するには時間外学習が不可欠です。また単位制の主旨からすると、各回4時間程度の時間外学習が必要です。そのため【事後学修】として復習課題を課します。これまでの学習内容（例題・課題を含む）のすべてを確認したうえで、各回の復習課題に取り組み期日までに提出してください。
テキスト	授業中に、適宜、資料を配布する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この授業を通して学んだことを生かし、日商PC検定試験データ活用2級の受験にチャレンジし合格を勝ち取ってほしい。また素早いタイピングはパソコンを利用した情報利活用を行う上で欠かすことはできない。タイピングの練習も真剣に取り組んでほしい。また授業回数の2/3以上出席した人を評価の対象とし、評価方法にしたがって評価を行います。
評価方法	復習課題の得点の合計(10点×12回=120点満点)を45%、授業時間内タイピング課題の得点の合計(2点×15回=30点満点)を15%、まとめの試験(各問題の配点の総合計を満点とする)を40%とし、総合得点60点以上を合格とします。まとめの試験は持ち込み不可とし、座席の指定を行います。まとめの試験では日商PC検定試験データ活用2級程度の内容を出題します。授業時間内タイピング課題は授業時間内に指定の提出フォルダに提出されたものを評価対象とします。
参考文献	日商PC検定試験データ活用に関するテキストが図書館などに数多く所蔵されている。
備考	情報処理演習Ⅱを履修済みであることが望ましい。授業時の座席を指定し、座席表により毎回出欠を取る。

講義科目名称：応用情報処理演習Ⅱ（60270）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	目的は商業簿記の簿記一巡の手続きを理解し記帳方法を学ぶことにより、金の流れと簿記・会計学の基本的な知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>第1回 簿記の基本。仕訳（開業・金融機関との取引） ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 仕訳（仕入・売上）</p> <p>第3回 仕訳（商品券・有価証券など）</p> <p>第4回 総勘定元帳一転記（勘定口座）（各種取引）</p> <p>第5回 総勘定元帳一転記（勘定口座）（人名勘定）</p> <p>第6回 補助記入帳</p> <p>第7回 試算表</p> <p>第8回 決算整理（現金過不足・消耗品・売上原価）</p> <p>第9回 決算整理（貸倒・減価償却・繰延べ・見越し）</p> <p>第10回 精算表</p> <p>第11回 貸借対照表・損益計算書</p> <p>第12回 伝票</p> <p>第13回 総合問題1</p> <p>第14回 総合問題2</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	日商簿記3級（商業簿記）程度の範囲を網羅する形で、仕訳、転記、試算表、決算、精算表、財務諸表の問題を解く。毎回、事前事後学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では基本的に「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では、1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、簿記一巡の手続きの理解および財務諸表の作成スキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適宜資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	6月または11月の検定試験を受けられる方向けの授業になります。沢山の課題を短期間で集中的にやることで3級の範囲を全部網羅します。卒業後は、いろんな場面で役立つスキルなので、学生のうちに身につけてください。
評価方法	小テスト：10回 x 5点 = 50点。 授業課題：10回 x 1点 = 10点。 総合課題：2回 x 5点 = 10点。 期末試験：30点。
参考文献	初回に紹介する。
備考	この授業では検定を受検される受講生を対象としている。

講義科目名称：応用情報処理演習Ⅲ（60280）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択
担当教員			
伊豆田 義人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	「簿記会計演習」または「応用情報処理演習II」等の商業簿記を対象とした授業での学習を踏まえて、本授業の目的は日商簿記2級（商・工業簿記）で求められる知識とスキルを習得することである。
授業計画	<p>第1回 簿記3級の復習（簿記一巡の手続き、損益計算書と貸借対照表） ※この授業計画は予定なので授業の進み具合等により若干変更する場合がある。</p> <p>第2回 商業簿記（株式・合併・固定資産・リース・研究開発・ソフトウェア）</p> <p>第3回 商業簿記（税・商品売買・債務・有価証券・外貨）</p> <p>第4回 商業簿記（銀行・引当金・伝票）</p> <p>第5回 商業簿記（清算表・財務諸表）</p> <p>第6回 商業簿記（本支店会計）</p> <p>第7回 商業簿記（連結会計）</p> <p>第8回 工業簿記（材料費・労務費・経費）</p> <p>第9回 工業簿記（個別原価）</p> <p>第10回 工業簿記（総合原価）</p> <p>第11回 工業簿記（財務諸表）</p> <p>第12回 工業簿記（財本社工場会計）</p> <p>第13回 工業簿記（標準原価計算）</p> <p>第14回 工業簿記（直接原価計算）</p> <p>第15回 工業簿記（CPV分析）</p>
授業概要	日商簿記2級（商・工業簿記）の範囲を網羅する。前半では、日本商工会議所3級で扱っていない商業簿記の個別論点と特殊論点を学習する。そして、後半では工業簿記の部分を習得する。事前学習用の課題等を与えて、授業時間の最初に小テストを実施するので、授業では基本的に「小テスト」と「解説」を行って、課題や問題等の作成は宿題とする。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	本科目では1時間の事前学習、3.5時間の事後学習を前提として各授業回の内容を構成している。よって、合計15回における事前事後学習の合計時間は67.5時間としている。ただし、社会でも求められているスキルの習得を目的としているのでこの合計時間は最低時間数になる。
テキスト	適時資料を配付する。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	日商簿記3級（商業簿記）では主に中小規模の店舗における簿記・会計を扱っているのに対し、日商簿記2級（商・工業簿記）では大規模な店舗を含む商業および工業を対象としている。2月の検定試験を受けられる方向けの授業になるので沢山の課題を短時間で集中的にやることで全範囲を部網羅します。
評価方法	（1）小テスト：10回 x 5点 = 50点。（2）授業課題：10回 x 1点 = 10点。（3）商業および工業簿記の総合課題：2回 x 5点 = 10点。（4）期末試験：30点。 成績 = （1） + （2） + （3） + （4）
参考文献	初回に紹介する。
備考	（1）「簿記会計演習」または「応用情報処理演習II」の事前受講、あるいは日商簿記3級程度の知識・スキルを有することが望まれている。（2）この授業では検定を受検される受講生を対象としている。

講義科目名称：英語一（60310）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	基本的な英文法を理解し、やさしい英語で書かれた文章を理解できるようになること。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、unit 11 A Nice Hotel or an Ice Hotel?(Wh-疑問文)</p> <p>第2回 Unit 12 Who Needs Real Money? (可算名詞/不可算名詞)、Unit 13 Smart Houses(代名詞)</p> <p>第3回 Unit 13 Smart Houses(代名詞)、Unit 14 For the Love of Sports (形容詞)</p> <p>第4回 Unit 15 Amusement Parks (形容詞の比較級と最上級)、Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)</p> <p>第5回 Unit 16 It's ALL About Location (場所や移動を表す前置詞)、Unit 17 Barak Obama (時を表す前置詞)</p> <p>第6回 Unit 18 Motivation (副詞)、Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)</p> <p>第7回 Unit 19 Pets (不定詞と動名詞)、Unit 20 Teleworking (接続詞)</p> <p>第8回 Unit 21 Our Precious Earth (従位接続詞)、Unit 22 Marriage (関係節)</p> <p>第9回 Unit 22 Marriage (関係節)、Unit 1 Getting into Hot Water (Be動詞)</p> <p>第10回 Unit 2 Tips for University Students (命令文)、Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)</p> <p>第11回 Unit 3 What Happens to Our Trash? (一般動詞)、Unit 4 To Your Health (現在進行形)</p> <p>第12回 Unit 5 Hello Cutie (過去形)、Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)</p> <p>第13回 Unit 6 Thank you John and Christopher (過去進行形)、Unit 7 Street Fashion & Fast Fashion (現在完了形)</p> <p>第14回 Unit 8 It's in the Bag (受動態)、Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)</p> <p>第15回 Unit 9 Cars of the Future (will /be going to)、Unit 10 The Tsukiji Fish Market(助動詞)</p>
授業概要	英語が得意でない学生を対象にした内容です。しかし、毎回、予習は必要です。興味深いトピックについて書かれたやさしい文章を読んで、その中で用いられている文法事項を復習し、練習問題によって内容理解を確認します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	翌週の範囲を必ず予習をすること。
テキスト	Robert Hickling, 市川泰弘編 Reading Sense 金星堂 2000円+税
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	出席を重視します。予習をして、どこが理解できないかをはっきりさせて授業に臨むこと。最初、辞書を使わないで英文を読み、理解できない部分をチェックします。その後、辞書で調べて、理解を深めるようにすること。それでも、理解できないところは授業中に質問してください。
評価方法	試験2回で60点、主体的な授業参加40点(授業中の発言、2/3以上の出席、1回欠席6点減点、受講受理期間中も出席を取る)。
参考文献	
備考	学年指定はしていないが、英語一は1年生に限って受講してもらいたい。1年次に外国語科目の単位を取得していない学生は2年生でも受講してかまわない。

講義科目名称：英語二（60320）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
北山 長貴			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 授業計画にある初級英文法の再確認をすること。 2. 基礎的な英語読解力をつけること。
授業計画	第1回 名詞、冠詞 第2回 代名詞 第3回 時制、進行形 第4回 完了形 第5回 助動詞 第6回 態 第7回 不定詞 第8回 分詞 第9回 動名詞 第10回 形容詞・副詞 第11回 比較 第12回 前置詞 第13回 関係詞（1）（関係代名詞） 第14回 関係詞（2）（関係副詞） 第15回 仮定法
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 英語が苦手だけれども、チャレンジしたい学生向けの授業とします。特に英文法の復習を目的とします。 テキストの構成は、前半が文法説明とその練習問題、後半はショート・リーディングとなっています。 授業では1回に2課進むことを目標にします。 解答はパワーポイントで提示します。 予習が前提の授業となります。ノートを1冊用意してください。
実務経験及び授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> 県立高等学校教諭の実務経験があり、この経験を生かし英語二の授業を行う。
時間外学習	<ul style="list-style-type: none"> 授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	『読解力につなげるコア英文法』（朝日出版）1600円（本体価格）ISBN 978-4-255-15638-5
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	<ul style="list-style-type: none"> 解答の提示はPower Pointを使います。辞書を教室に持ってくるように（電子辞書も可）
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加度（50%）、筆記試験（50%）
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語三（60330）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
横山 利夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	この授業では読解力向上に主眼を置く。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	Hibari Misora(美空ひばり)	
	第3回	Shizuka Arakawa (荒川静香)	
	第4回	Yoshiko Sakurai (櫻井よしこ)	
	第5回	Taguchi (田口 荘)	
	第6回	Hiraizumi (歴史遺産 平泉)	
	第7回	Rice (ハイテク米づくり)	
	第8回	Ecocircle (エコサークル)	
	第9回	Sustainable Paper Manufacturing (環境持続型製紙)	
	第10回	Frozen Foods (グルメ冷凍食品)	
	第11回	Anti-cancer Diet (アンチ・キャンサーダイエット)	
	第12回	Postal System Privatization (郵政民営化)	
	第13回	Disaster Prevation (防災)	
	第14回	JRA (日本中央競馬会)	
	第15回	Systems Integration (システム・インテグレーション)	
授業概要	テキストの文章には重要な語彙、イディオム、構文などが適切にちりばめられて、多様性に富んだ英文が学べるように配慮されている。テキストでは環境問題や文化、教養、健康、そしてビジネスをテーマとし、それに関連した題材が選ばれている。授業では全訳はしない。各受講者が予習して、英文解釈に自信のない箇所を訳してもらい、授業担当者が構文や文法などについて説明し、誤りに気づいてもらうようにする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	それぞれのテーマについて、各自で詳しく調べてみてください。		
テキスト	編著者 クリストファー・ブルスミス他 ECO-INNOVATION AND PROSPERITY(エコイノベーションと繁栄) 南雲堂 (2009) 絶版になっているので、プリントを使用する。		
受講生へのメッセージ(授業評価を踏まえた方針など)	毎回予習が必要です。予習をして、どこがわからないかを受講者に授業で言ってもらい、その箇所を重点的に説明します。予習では最初本文を辞書なしで読み、わからない部分をチェックし、それから辞書などで調べること、そして、何度も音読することです。		
評価方法	主体的な授業参加40点(授業中の発言、3分の2以上の出席が条件で、欠席1回につき5点減点。受講受理期間も出欠を取ります)。試験2回(60点)		
参考文献			
備考	学年指定はしていないが英語三は2年生に限って受講してもらいたい。		

講義科目名称：英語四（60340）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
渡邊 真由美			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語を聞くことに重点を置き、英語を意味にあるまとまりとして聞き取ることができるようにする。英語の基本的な構造を理解し、英文を読むことができるようになる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 授業の進め方、評価方法についての説明</p> <p>第2回 Unit 1 「幸福な王子」 オスカー・ワイルドと19世紀末のイギリスについて テキスト pp. 9-13. 単語の確認と聞き取り問題</p> <p>第3回 Unit 1 「幸福な王子」 テキスト pp. 14-16. 英文を読んで訳をつける。問題の解答。</p> <p>第4回 Unit 1 小テスト、Unit 2 「幸福な王子」 Unit 1の小テスト Unit 2 テキストpp. 17-19. 単語の確認、聞き取り。</p> <p>第5回 Unit 2 「幸福な王子」 テキストpp. 20-22. 英文を読んで訳をつける。問題の解答。</p> <p>第6回 Unit 2 小テスト、マーク・トウェインとアメリカ文学 Unit2小テスト マーク・トウェインとその文学のアメリカ文学史における意義について</p> <p>第7回 Unit 11 『アーサー王宮廷のコネチカット・ヤンキー』 Unit 11 テキスト pp. 77-81. 単語の確認・聞き取り。</p> <p>第8回 Unit 11 テキスト pp. 82-84. 英文を読んで訳をつける。問題の解答。</p> <p>第9回 Unit 11 小テスト Unit 12 Unit 11 小テスト Unit 12 テキスト pp. 85-87. 単語の確認・聞き取り</p> <p>第10回 Unit 12 テキスト pp. 88-90. 英文を読んで訳をつける。問題の解答。</p> <p>第11回 Unit 12 小テスト Unit 13 Unit 12 小テスト Unit 13 テキスト pp. 91-93. 単語の確認・聞き取り</p> <p>第12回 Unit 13 Unit 13 テキスト pp. 94-96. 英文を読んで訳をつける。問題の解答</p> <p>第13回 Unit 13 小テスト、Unit 14 Unit 13 小テスト Unit 14 テキスト pp. 97-99. 単語の確認・聞き取り。</p> <p>第14回 Unit 14 テキスト pp. 100-102. 英文を読んで訳をつける。問題の解答。</p> <p>第15回 Unit 14小テスト Unit 14 小テスト</p>
授業概要	英語で書かれた小説を授業用に書き直されたテキストを使用し、作品が書かれた時代背景を考慮に入れながら、小説を読む。授業ではテキストの中からオスカー・ワイルドの『幸福な王子』とマーク・トウェインの『アーサー王宮廷のコネチカット・ヤンキー』を読む。テキストにしたがって、聞き取り、単語の確認、本文の日本語訳を行う。特に、本文の日本語訳は授業中に指名し、発表してもらう。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	次回の予習箇所を指定します。必ず予習して来ること。英文本文のわからない単語があれば調べ、日本語にできるようにして来ること。
テキスト	上村淳子他著 Story Box : Gifts from Great Tellers センゲージラーニング 2,000円＋税
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	英語で書かれた小説の楽しみを味わってください。
評価方法	一つのユニットが終わるごとに小テストを行います（20点満点）。その結果で評価を行います。必ず受験してください。 5回以上欠席した場合、単位の認定は行いません。
参考文献	
備考	

講義科目名称：英語五（60350）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
三枝 和彦			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英文読解力を中心に、英語運用能力を総合的に養成するための授業です。 具体的には次の目標を達成することを目指します。 (1) 比較的長い文章を、要点を把握しながら読み進めることができるようになる。 (2) 基礎的な語彙や、文章を展開するための表現を身につける。 (3) 読んだ文章の内容について、話したり書いたりできるようになる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方や評価など）</p> <p>第2回 Chapter 1 A Family Sees America Together</p> <p>第3回 Chapter 3 How Alike Are Identical Twins?</p> <p>第4回 Chapter 5 Robots: The Face of the Future</p> <p>第5回 Chapter 7 Improving Lives with Pet Therapy</p> <p>第6回 Chapter 9 Alfred Nobel: A Man of Peace</p> <p>第7回 Chapter 11 Oil as an Important World Resource</p> <p>第8回 中間試験と振り返り</p> <p>第9回 Chapter 2 Volunteer Vacations</p> <p>第10回 Chapter 4 The Search for Happiness through Adoption</p> <p>第11回 Chapter 6 A New Way to Go</p> <p>第12回 Chapter 8 A Healthy Diet for Everyone</p> <p>第13回 Chapter 10 Marie Curie: Nobel Prize Winner</p> <p>第14回 Chapter 12 Earthquakes: Hard to Predict</p> <p>第15回 期末試験と振り返り</p>
授業概要	テキストの内容に沿って学習を進めていきます。詳細はオリエンテーションで説明します。また、授業ごとに前回授業の内容に関する小テストを実施します。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業後は必ず復習し、学習内容の定着を図りましょう。
テキスト	山科美和子他 『Reading Access—Skills for Academic Success』 センテージラーニング（2000円＋消費税）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	様々なトピックの英文を読んでいきます。授業中は集中してワークに取り組み、授業後は学習事項の復習と、音読・黙読を繰り返してください。
評価方法	小テスト（20%）、中間試験（40%）、期末試験（40%）
参考文献	適宜紹介します。
備考	

講義科目名称：英語六（60360）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
阿部 隆夫			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	様々な分野の情報について読みとったり聞き取ったりし、目的に応じてその情報や考えを理解することができ、更には複数の領域を統合した言語活動が行えるようになること、CEFR-B2以上を目標にする。更にはTOEICやTOEFLで高得点をとる方法を伝授する。異文化間コミュニケーション能力を育成する。		
授業計画	第1回	練習テスト1: No. 1からNo. 6まで, No. 147からNo. 148まで	
	第2回	練習テスト1: 7から19まで, 149から151まで	
	第3回	練習テスト1: 19から37まで, 152から154まで	
	第4回	練習テスト1: 38から43まで, 155から156まで	
	第5回	練習テスト1: 44から49まで, 157から158まで	
	第6回	練習テスト1: 50から55まで, 159から160まで	
	第7回	練習テスト1: 56から61まで, 161から163まで	
	第8回	練習テスト1: 62から67まで, 164から167まで	
	第9回	練習テスト1: 68から73まで, 168から171まで	
	第10回	練習テスト1: 74から79まで, 172から175まで	
	第11回	練習テスト1: 80から82まで, 176から180まで	
	第12回	練習テスト1: 83から85まで, 181から185まで	
	第13回	練習テスト1: 86から91まで, 186から190まで	
	第14回	練習テスト1: 92から97まで, 191から195まで	
	第15回	練習テスト1: 98から100まで, 196から200まで	
		他、毎回冒頭に『異文化間英語コミュニケーション』の練習問題を扱う（事例1から事例14まで）	
授業概要	TOEICの聞き取り問題と読解問題を毎回15問程度ずつ練習しながらTOEICの特徴を説明し高得点の為の練習方法を紹介する。各回の初めに社会言語学に基づいた異文化間コミュニケーション事例分析をする。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	毎回分の問題の答えを予習し、更に音読練習まで終わらせてから授業に臨んでほしい。		
テキスト	『公式TOEIC Listening & Reading 問題集vol.3』（国際ビジネスコミュニケーション協会2017）； タカオ・アベ『ピンときた！納得の異文化間英語コミュニケーション』（開拓社, 2011）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	予習が重視され、理解できなかった箇所に関しては次回に適時説明がされる。		
評価方法	平常の音読練習課題15%、提出課題25%、定期試験60%		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英語七（60370）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
松井 真人			
			授業形態：講義・演習

授業のテーマ及び到達目標	高校までに学ぶ基礎的な英文法を理解し、平易な英文を読むことができるようになること。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	品詞	
	第3回	時制・進行形	
	第4回	基本5文型	
	第5回	現在完了	
	第6回	過去完了・未来完了	
	第7回	法助動詞	
	第8回	仮定法	
	第9回	関係節	
	第10回	関係副詞	
	第11回	分詞構文	
	第12回	冠詞	
	第13回	不定詞	
	第14回	受け身形	
	第15回	使役形	
授業概要	毎回、担当教員がテキストに沿って文法項目の解説をする。その後、受講生は練習問題を教材としてさらに文法の理解を深める。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	予習として、次回学習するテキストの範囲の解説をよく読み、練習問題も解いてみる。復習として、わからなかった文法事項をよく覚えること。		
テキスト	藤田直也（著）『クラスで読む英文法 ーリメディアル学習対応ー』朝日出版社 1,944円（税込）		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	できるだけ丁寧に解説していくが、分からない点があれば遠慮なく質問してほしい。また、予習と復習をしっかりとやってほしい。TOEICや英検などの検定試験や編入学試験を受験する人は、英文法をしっかりと勉強することをお勧めする。		
評価方法	授業への参加度25%、学期末試験75%		
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。		
備考			

講義科目名称：英語八（60380）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
太田 裕子			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	英語の読解能力養成を目指します。新時代の都市伝説、自己暗示の科学、フォロワーの数と孤独など最新の話題についての英文を読みます。やさしく読め、同じ内容の形を変えた英文に何度も触れることで、学習事項が定着しやすい構成になっています。速読の力がつきます。各章末には読んだ内容を人に伝えるためのタスクがあります。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第3回 Unit 1 Truths and Falsehoods About Colds</p> <p>第4回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第5回 Unit 3 Does Having More Money Makes You Less Kind?</p> <p>第6回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第7回 Unit 4 3,000 Friends and All Alone: The Loneliness of Social Media</p> <p>第8回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第9回 Unit 6 “Fake It Till You Make It” : The New Psychology of Body Language</p> <p>第10回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第11回 Unit 9 Online Privacy and Identity Theft</p> <p>第12回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第13回 Unit 10 Robot Suit HAL</p> <p>第14回 習熟度の確認</p> <p>第15回 習熟度の確認</p>
授業概要	教科書の問題に一通り取り組む予定です。READINGは一段落程度ずつ担当を決め、速読練習後に和訳を発表してもらい、精読を行います。和訳担当者は、英文を音読した後、和訳をします（クラス全体に聞こえるように気を付けましょう。）和訳担当者は予め和訳を紙に書いてきましょう。（和訳のスキルは速読のスキルとは異なります。日本語として自然な訳を心がけましょう。）
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	Reading Cycle循環型で学ぶリーディング演習 金星堂（2016）1,900円（税別） ISBN978-4-7647-4024-2 卯城祐司、名畑目真吾、長谷川佑介、木村雪乃、濱田彰、Peter Serafin、Xanthe Smith Serafin 著
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	授業参加も評価の対象となるので、やむを得ない事情（通院、忌引き、部活動など）で欠席する/した場合は連絡をしましょう。遅刻した場合、出席確認しそなう場合があるので、授業後に一言断るようになります。正当な理由のない欠席、無断欠席は授業参加の評価を下げることになります。
評価方法	授業で読んだところの内容理解、文法事項、語彙に関する筆記試験を行います。グループワークへの参加、提出物も評価の対象とします。期末試験50%、授業参加（小テスト、提出物など）50%
参考文献	音読MAX（2012）南雲堂 1,400円＋税 黒川裕一著 ISBN978-4-523-26512-2
備考	

講義科目名称：英語九（60390）

授業コード：

英文科目名称：-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
金子 淳			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 英語の四技能のうち、リーディングの力を養成します。 2. 補助的にリスニングのトレーニングも実施します。 3. 編入試験対策となるように、和訳の練習、英検、TOEICの問題に対応できるような練習をします。
授業計画	<p>第1回 どうしたら英語を身につけることができるのか？</p> <p>第2回 TOEICのリーディング対策全般</p> <p>第3回 TOEICのリーディング対策 PART5 短文穴埋め問題</p> <p>第4回 TOEICのリーディング対策 PART6 長文穴埋め問題</p> <p>第5回 TOEICのリーディング対策 PART7 読解問題</p> <p>第6回 TOEICのリーディング対策 PART7 複数英文問題の対策</p> <p>第7回 TOEICのリスニング対策全般</p> <p>第8回 TOEICのリスニング対策 PART1 写真描写問題</p> <p>第9回 TOEICのリスニング対策 PART2 応答問題</p> <p>第10回 TOEICのリスニング対策 PART3 会話問題</p> <p>第11回 TOEICのリスニング対策 PART4 説明文問題</p> <p>第12回 英検対策 リスニング</p> <p>第13回 英検対策 リーディング</p> <p>第14回 和訳問題対策(文法と構文)</p> <p>第15回 和訳問題対策(練習問題)</p>
授業概要	編入試験に必要な英語力を身につけることをねらいとします。具体的な内容は、リーディングを中心に、適宜リスニングを実施し、日本語訳、英検、TOEICの問題に解答できるような練習を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業を踏まえてテキストを今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。授業中にわからなかった語句の意味を調べること。
テキスト	使用しません。適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	きちんと予習をして、授業に臨んで下さい。授業の後は、必ず復習をするようにして下さい。
評価方法	授業中に課す課題40% + 複数回の小テスト40% + 受講する姿勢20%
参考文献	
備考	

講義科目名称：英会話A（日・社）（60400）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A goof attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話B（国）（60410）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Likes and Dislikes	
	第3回	Food	
	第4回	Restaurant English	
	第5回	My Hometown	
	第6回	Holidays and Festivals	
	第7回	Movies and TV Shows	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Airplane	
	第10回	Immigration	
	第11回	Hotel	
	第12回	Superstitions	
	第13回	Game	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話C (60420)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：英会話D (60430)

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修・教職選択必修
担当教員			
マーニ・タヴァコリ			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	The purpose of this class is to learn how to use words and simple expressions that will help students to express themselves clearly and correctly in daily activities. Students will also learn how to improve their understanding of spoken English.		
授業計画	第1回	Introduction to the Course	
	第2回	Describing `People	
	第3回	Family	
	第4回	Comparison with Adjectives	
	第5回	Numbers	
	第6回	Shopping	
	第7回	Time	
	第8回	Audiovisual	
	第9回	Music	
	第10回	Fast Food	
	第11回	American Money	
	第12回	Health	
	第13回	Hobbies and Free Time	
	第14回	Review	
	第15回	Test Preparation	
授業概要	In each class, the teacher will teach basic phrases to discuss a general topic. Students will then be divided into small groups to practice the phrases and discuss the topic in English. The teacher will supervise the discussions and answer any questions		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	Jornal		
テキスト	There is no textbook for this class. Students will take notes. Also, students are asked to bring a Japanese-English/English-Japanese Dictionary, or an electric dictionary.		
受講生へのメッセージ (授業評価を踏まえた方針など)	Don' t be afraid to speak in English. English is fun! Participate enthusiastically in class activities. A good attitude makes a strong learning environment.		
評価方法	50% of the grade will be based on active class participation. 50% will be based on a final interview exam.		
参考文献			
備考			

講義科目名称：異文化理解実習（60451）

授業コード：

英文科目名称：Cross-Cultural Understanding Experience

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	2	選択必修
担当教員			
英語英文学科専任教員			
			授業形態：実習

授業のテーマ及び到達目標	(1) 英語圏における語学学校での研修を通して、現地の人々と英語で交流し、英語コミュニケーション能力と英語表現能力を向上させること (2) 課外活動やホームステイ等の異文化体験を通し多様性の理解と適応能力を養うこと		
授業計画	第1回	ガイダンス：異文化理解実習の目的と概要説明、渡航に必要な事務手続の連絡	
	第2回	外国語コミュニケーション：英語コミュニケーションの基本について学ぶ	
	第3回	英語表現：生活に必要な具体的な英語表現について学ぶ	
	第4回	異文化理解（1）：多様性の理解について	
	第5回	異文化理解（2）：異文化適応について	
	第6回	実習：第1日 語学学校でのオリエンテーションとクラス分けなど ・移動日を含めて10日程度：学校で1日8時間（5日40時間）、異文化体験（休日分10時間） ・実習前日までに日本から現地まで移動	
	第7回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第8回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第9回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第10回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第11回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第12回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第13回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第14回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
	第15回	実習：第2日～ 最終日まで学校での授業、異文化理解に関する実習	
授業概要	・英語圏（英語が母語あるいは日常のコミュニケーションの手段として広く使われている地域）の国での実習を2月に予定しています。英語英文学科の引率教員が渡航前に事前実習を10時間実施し、現地への移動方法、実習内容についても説明します。1回目の事前実習は6月下旬とし、その後原則として毎月1回事前指導を予定しています。日程は実習生と教員の時間割に合わせて調整します。 ・事前実習指導の後、実習国に渡航します。語学学校で授業を受けることによって、英語コミュニケーション練習をします。また、課外活動を通じて、異文化経験を積みみます。 ・期間：（移動日を含めて）10日間程度 ・場所：英語圏の国を予定（決定次第掲示、事前実習でお知らせします） ・学科を問わず事前指導を受講した者は参加可能です。安全、円滑な実習実現のため、最終的に渡航できるのは、やむを得ない理由の場合を除き、毎回の事前指導講座に出席した者とします。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	新聞やニュースをチェックして、実習に訪れる地域の取り巻く問題に興味や関心を持つこと。		
テキスト	資料と教材を事前指導および現地校にて適宜配布します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	どの学科の学生も参加できます。		
評価方法	事前指導参加（25%）、現地活動状況（65%）、実習後レポート（10%）		
参考文献			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 第0課：アルファベ・綴り字の読み方</p> <p>第3回 第0課：アルファベ・綴り字の読み方</p> <p>第4回 第1課：日常のあいさつ・主語人称代名詞・動詞être</p> <p>第5回 第1課：日常のあいさつ・主語人称代名詞・動詞être</p> <p>第6回 第1課：日常のあいさつ・主語人称代名詞・動詞être</p> <p>第7回 第1課：日常のあいさつ・主語人称代名詞・動詞être</p> <p>第8回 第2課：名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞</p> <p>第9回 第2課：名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞</p> <p>第10回 第2課：名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞</p> <p>第11回 第2課：名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞</p> <p>第12回 第3課：第一群規則動詞・定冠詞・疑問文</p> <p>第13回 第3課：第一群規則動詞・定冠詞・疑問文</p> <p>第14回 第3課：第一群規則動詞・定冠詞・疑問文</p> <p>第15回 第3課：第一群規則動詞・定冠詞・疑問文</p>
授業概要	フランス語を初めて学ぶ学生向けの講義です。基礎文法とフランス語による簡単な日常会話を学習します。また必要に応じて、音楽CDなどを用い、フランス文化について理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で習った表現を声に出して練習すること。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 前期の復習</p> <p>第3回 前期の復習</p> <p>第4回 第4課：動詞avoir・否定文・人称代名詞の強勢形</p> <p>第5回 第4課：動詞avoir・否定文・人称代名詞の強勢形</p> <p>第6回 第4課：動詞avoir・否定文・人称代名詞の強勢形</p> <p>第7回 第4課：動詞avoir・否定文・人称代名詞の強勢形</p> <p>第8回 第5課：動詞allerと近接未来・指示形容詞・動詞faire</p> <p>第9回 第5課：動詞allerと近接未来・指示形容詞・動詞faire</p> <p>第10回 第5課：動詞allerと近接未来・指示形容詞・動詞faire</p> <p>第11回 第5課：動詞allerと近接未来・指示形容詞・動詞faire</p> <p>第12回 第6課：所有形容詞・疑問形容詞・動詞pouvoir</p> <p>第13回 第6課：所有形容詞・疑問形容詞・動詞pouvoir</p> <p>第14回 第6課：所有形容詞・疑問形容詞・動詞pouvoir</p> <p>第15回 第6課：所有形容詞・疑問形容詞・動詞pouvoir ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせて、調整します。</p>
授業概要	「フランス語一」の履修学生を対象とした講義です。前期に引き続き、フランス語の基礎文法・日常会話を勉強します。必要に応じて、音楽CDなどを用い、フランス文化に対する理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で習った表現を声に出して練習すること。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語三（60480）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 前年度の復習</p> <p>第3回 前年度の復習</p> <p>第4回 第7課：疑問代名詞quiとque・il y aの表現・定冠詞の縮約</p> <p>第5回 第7課：疑問代名詞quiとque・il y aの表現・定冠詞の縮約</p> <p>第6回 第7課：疑問代名詞quiとque・il y aの表現・定冠詞の縮約</p> <p>第7回 第7課：疑問代名詞quiとque・il y aの表現・定冠詞の縮約</p> <p>第8回 第8課：動詞vouloirとprendre・部分冠詞・女性形容詞の特殊な形</p> <p>第9回 第8課：動詞vouloirとprendre・部分冠詞・女性形容詞の特殊な形</p> <p>第10回 第8課：動詞vouloirとprendre・部分冠詞・女性形容詞の特殊な形</p> <p>第11回 第8課：動詞vouloirとprendre・部分冠詞・女性形容詞の特殊な形</p> <p>第12回 第9課：動詞venirと近接過去・第二群規則動詞・補語人称代名詞</p> <p>第13回 第9課：動詞venirと近接過去・第二群規則動詞・補語人称代名詞</p> <p>第14回 第9課：動詞venirと近接過去・第二群規則動詞・補語人称代名詞</p> <p>第15回 第9課：動詞venirと近接過去・第二群規則動詞・補語人称代名詞 ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせ、調整します。</p>
授業概要	前年度「フランス語一」及び「フランス語二」の履修学生を対象とした講義です。基本的なフランス語の文法を勉強します。また、音楽CDなどを使い、フランス文化についての理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で習った表現の音読練習、またわからなかった語彙の意味を調べること。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

講義科目名称：フランス語四（60490）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
石田 雄樹			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. フランス語の基本的な文法や表現を理解し、簡単なコミュニケーションができる。 2. フランス文化について理解を深める。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション</p> <p>第2回 前期の復習</p> <p>第3回 前期の復習</p> <p>第4回 第10課：複合過去・中性代名詞enとy</p> <p>第5回 第10課：複合過去・中性代名詞enとy</p> <p>第6回 第10課：複合過去・中性代名詞enとy</p> <p>第7回 第10課：複合過去・中性代名詞enとy</p> <p>第8回 第11課：半過去・動詞savoirとconnaître</p> <p>第9回 第11課：半過去・動詞savoirとconnaître</p> <p>第10回 第11課：半過去・動詞savoirとconnaître</p> <p>第11回 第11課：半過去・動詞savoirとconnaître</p> <p>第12回 第12課：非人称構文・代名動詞・感嘆文quelとque</p> <p>第13回 第12課：非人称構文・代名動詞・感嘆文quelとque</p> <p>第14回 第12課：非人称構文・代名動詞・感嘆文quelとque</p> <p>第15回 第12課：非人称構文・代名動詞・感嘆文quelとque ※教科書を中心に進めますが、進度は受講者の理解に合わせて、調整します。</p>
授業概要	「フランス語三」の履修学生が対象の講義です。前期に引き続き、フランス語の基礎文法を勉強します。また必要に応じ、音楽CDなどを用い、フランス文化についての理解を深めます。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	授業で習った表現の音読練習、またわからなかった語彙の意味を調べること。
テキスト	藤田裕二、東海麻衣子『Tarte Tatin』（タルト・タタン）、駿河台出版社、2300円。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の上達には自主的な学習が不可欠です。授業の予習と復習をするだけでフランス語の理解は飛躍的に高まります。またCDやインターネットを使い、フランス語の発音に慣れることも大切です。
評価方法	期末試験の結果（50%）、授業への参加度（20%）、課題提出（30%）の三項目によって評価を行います。
参考文献	
備考	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	中国語の基礎力を養成することを目的とする。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	声調と単母音	
	第3回	鼻母音と二重母音・三重母音	
	第4回	子音	
	第5回	卷舌音と軽声	
	第6回	挨拶	
	第7回	別れの挨拶	
	第8回	感謝とお詫び	
	第9回	返事と呼び掛け	
	第10回	買い物、肯定文と否定文	
	第11回	初対面の会話、是の用法	
	第12回	疑問詞、的の用法	
	第13回	数字	
	第14回	時間と日付	
	第15回	まとめ	
授業概要	中国語の発音、ローマ字表記システムであるピンイン、および挨拶など簡単な日常会話を学び、中国語の基礎の習得を目指す。また、中国の文化・社会についても随時紹介していく。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学の学習で重要なのは声を出すこと。授業では、恥ずかしがらずに大きな声を出しましょう。また、予習・復習をすれば、授業が楽しくなります。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
解 澤春			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 中国語の発音の仕組みについて一通り理解し、正確に発音できるようになります。 2. 中国語の基本文型および常用される語彙を身につけます。
授業計画	<p>第1回 授業の進め方とガイダンス</p> <p>第2回 中国語の音節 声調</p> <p>第3回 単母音 複母音</p> <p>第4回 子音 無気音と有気音</p> <p>第5回 反り舌音 鼻音を伴う母音</p> <p>第6回 声調の組み合わせ 声調変化</p> <p>第7回 発音編のまとめ</p> <p>第8回 名前の言い方 人称代名詞</p> <p>第9回 動詞“是”</p> <p>第10回 助詞“的”</p> <p>第11回 基本語順 S + V + O</p> <p>第12回 連動文</p> <p>第13回 助動詞“想”</p> <p>第14回 動詞“有” 指示代名詞</p> <p>第15回 前期のまとめ</p>
授業概要	本授業は、主に中国語の発音、基礎文法と基本文型を学びます。教材に提示された単語や文型、文法ポイントおよび本文の説明をします。重点的に応用練習を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回十分な予習を行い、新しい単語を調べ、文法事項に目を通し、テキスト付録のCDを活用して本文を何度も音読しておくこと。わからない発音や文法事項は積極的に質問すること。授業で習った内容が頭に残っているうちに復習すること。
テキスト	陳淑梅・劉光赤 著『しゃべっていいとも中国語』（朝日出版社、CD付き）2,300円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は繰り返すと積み重ねが大切です。ネイティブの発音を毎日触れて、聞くだけでなく、読み書きもしっかり学ぶこと、それがずっと役立つ中国語への近道です。 今年度も引き続きはっきりと伝わるように発音や表現を工夫したいと思っています。
評価方法	授業への参加度・授業での発言・小テスト（50%）、期末試験（50%）
参考文献	参考書・辞書は開講時に紹介します。その他適宜資料をプリントして補充します。
備考	

講義科目名称：中国語二（60510）

授業コード：60511 60512

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」での内容をふまえ、より高度な文法事項を学ぶ。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	是の用法「AはBです」	
	第3回	指示語「これ・あれ・どれ」	
	第4回	形容詞述語文「Aは（とても）Bです」	
	第5回	否定文「AはBではない」	
	第6回	諾否疑問文	
	第7回	反復疑問文	
	第8回	選択疑問文	
	第9回	有と在の用法「AはBにいます」	
	第10回	疑問詞「何」「どのような」	
	第11回	疑問詞「誰」「どれ」「どこ」	
	第12回	疑問詞「なぜ」「どのように」	
	第13回	前置詞「私は駅に行きます」	
	第14回	助動詞「中国語が話せます」	
	第15回	まとめ	
授業概要	中国語の基本的な文法事項について講義する。毎回提示する重要構文を正確に理解し、使用できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 基礎マスター』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は暗記が必要。復習をして次の授業の準備をする習慣を身につけましょう。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
解 澤春			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	1. 「中国語一」の目標を深化させながら、中国語を学習するための基礎を確立します。 2. 簡単な中国語でコミュニケーションがとれるようになります。
授業計画	第1回 前期の復習 第2回 動詞“在” 方位詞 第3回 前置詞の使い方 第4回 場所を表す指示代名詞 第5回 数の言い方 中国のお金の言い方 第6回 形容詞述語文 第7回 年月日 曜日 年齢の言い方 第8回 量詞 動詞の重ね型 第9回 時刻の言い方 第10回 文末の”了” 第11回 時間の長さの言い方 第12回 動詞につく”了” 第13回 助動詞“可以”、“能”、“会” 第14回 進行の表し方 第15回 後期のまとめ
授業概要	本授業は、さまざまな場面で使える中国語を学びます。中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって、中国語に対する理解を深めます。教材に提示された単語や文型、文法ポイントおよび本文の説明をします。重点的に応用練習を行います。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	毎回十分な予習を行い、新しい単語を調べ、文法事項に目を通し、テキスト付録CDを活用して本文を何度も音読しておくこと。わからない発音や文法事項は積極的に質問すること。授業で習った内容が頭に残っているうちに復習すること。
テキスト	陳淑梅・劉光赤 著『しゃべっていいとも中国語』（朝日出版社、CD付き）2,300円（税別）
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	語学は繰り返しと積み重ねが大切です。ネイティブの発音を毎日触れて、聞くだけでなく、読み書きもしっかり学ぶこと、それがずっと役立つ中国語への近道です。今年度も引き続きはっきりと伝わるように発音や表現を工夫したいと思っています。
評価方法	授業への参加度・授業での発言・小テスト（50%）、期末試験（50%）
参考文献	辞書・参考書は開講時に紹介します。その他適宜資料をプリントして補充します。
備考	

講義科目名称：中国語三（60520）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語一」・「中国語二」で学んだ内容をふまえ、実践的な中国語の習得を目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	代名詞と肯定・否定文	
	第3回	時と金額	
	第4回	有と在	
	第5回	疑問文	
	第6回	出会いの表現	
	第7回	時と語順	
	第8回	様々な疑問詞	
	第9回	時間量	
	第10回	仮定の表現	
	第11回	出身の表現	
	第12回	前置詞「私は駅に行きます」	
	第13回	「的」の用法	
	第14回	チェックイン	
	第15回	まとめ	
授業概要	実践的な中国語を講義する。テキストの会話文を正確に理解した上で、自らも表現できるように指導する。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語は初級からのレベルアップが難しい言語です。基礎事項を確認しつつ、応用力をつけましょう。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：中国語四（60530）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択必修
担当教員			
齋藤 知広			
			授業形態：演習

授業のテーマ及び到達目標	「中国語三」で学んだ内容をふまえ、さらに実践的な中国語の習得を目指す。		
授業計画	第1回	ガイダンス	
	第2回	相手の意向を尋ねる	
	第3回	宴席での会話	
	第4回	完了を表す	
	第5回	変化を表す	
	第6回	屋台街での会話	
	第7回	進行を表す	
	第8回	状態を表す	
	第9回	料理についての会話	
	第10回	経験を表す	
	第11回	動詞の重ね型	
	第12回	「少し」を表す	
	第13回	ビジネス会話	
	第14回	自己紹介	
	第15回	まとめ	
授業概要	より実践的な中国語を講義する。テキストの会話文を正確に理解した上で、自らも表現できるように指導する。最後には自由に自己紹介ができる程度の中国語力を習得させる。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業で指定された例文を、次の授業までに、しっかり覚えてくること。		
テキスト	山下輝彦『わくわく中国語 会話レッスン』アスク出版、1800円(本体価格)		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	中国語一から三までに習得した知識をもとに、理解するだけでなく、考えて表現できる力を身につけてください。		
評価方法	授業での発言、および期末の筆記試験をもとに評価する。（発言50%、試験50%）		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技一（60610）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第4回	バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第5回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技二（60620）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	個人種目スポーツ（テニス、バドミントン、卓球、ゴルフ）の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業に関する説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する	
	第4回	バドミントン、卓球 種目の特性およびルールの理解、基本的技能の習得	
	第5回	バドミントン、卓球 簡易ゲーム、シングルス	
	第6回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦①	
	第7回	バドミントン、卓球 ダブルス、リーグ戦②	
	第8回	ゴルフ、テニス 種目の特性およびルールの理解	
	第9回	ゴルフ、テニス 基本的技能の習得	
	第10回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス①	
	第11回	ゴルフ、テニス 簡易ゲーム、シングルス②	
	第12回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス①	
	第13回	ゴルフ、テニス ラウンド、ダブルス②	
	第14回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
	第15回	バドミントン、卓球、テニス、ゴルフ 各自種目を選択し、グループごとに取り組む。	
授業概要	様々なラケット系種目を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は、個人種目のスポーツを通じて楽しく身体を動かす時間です。それぞれの種目を実際にやってみることで、身体を動かす楽しさはもちろん、それぞれの種目のおもしろさにもふれることができるでしょう。その中からみなさんが生涯楽しんでいけるスポーツにも出会えるかもしれません。スポーツが好きな人はもちろん、スポーツが苦手な人もまずは一緒にやってみましょう。みなさんのスポーツ熱が高まるような授業にしていきたいと考えています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技三（60630）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技四（60640）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	球技スポーツ（バスケットボール、バレーボール、フットサル、ソフトボール）を楽しみながら、それぞれの種目の基本的な技術、戦術あるいはルールなどにふれることで、スポーツの楽しみ方（実際にする、観るなど）を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	バレーボールまたはフットサル 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第5回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第6回	バレーボールまたはフットサル 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第7回	バレーボールまたはフットサル リーグ戦③	
	第8回	ソフトボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第9回	ソフトボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第10回	ソフトボール リーグ戦②	
	第11回	バスケットボール 種目およびルールの理解、基本的な技能の習得	
	第12回	バスケットボール 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	バスケットボール リーグ戦②	
	第14回	まとめ① バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
	第15回	まとめ② バレーボール、フットサル、ソフトボール、バスケットボールの中から各自種目を選択し、グループごとに試合を行う	
授業概要	上記の種目について、1種目につき3時間程度ずつ実技を実施していきます。最初の時間にオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間はチームスポーツを対象とした時間です。みなさん1人1人には、例えば、右利きの人左利き人、走るのが速い人遅い人など、それぞれ特徴があります。仲間同士でその特徴を生かし合いながら、チームでスポーツをする楽しさを味わってください。また、ゲーム中の戦術や技術にふれば、これらのスポーツを観るときに新たな楽しみ方が増えます。みなさんがこの時間を楽しみに思い、より意欲的に参加できるような時間にしていきたいと思います。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技五（60650）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋外体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	スカイクロス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①	
	第5回	スカイクロス ゲーム、ラウンド②	
	第6回	インディアカ 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第7回	インディアカ リーグ戦②	
	第8回	フリーテニス 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得	
	第9回	フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス	
	第10回	フリーテニス ダブルス	
	第11回	ユニホック 種目の特性とルールを理解。基本的な技能の習得	
	第12回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第14回	まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
	第15回	まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技六（60660）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なニュースポーツを経験することで、身体を動かすことの楽しさやこれまでに経験したことのないスポーツを行うことの楽しさを味わう。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の進め方の説明	
	第2回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第3回	屋内体力測定 自分自身の体力を把握する。	
	第4回	スカイクロス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。ゲーム、ラウンド①	
	第5回	スカイクロス ゲーム、ラウンド②	
	第6回	インディアカ 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得。簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第7回	インディアカ リーグ戦②	
	第8回	フリーテニス 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得	
	第9回	フリーテニス 簡易ゲーム、シングルス	
	第10回	フリーテニス ダブルス	
	第11回	ユニホック 種目の特性とルールの理解。基本的な技能の習得	
	第12回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦①	
	第13回	ユニホック 簡易ゲーム、リーグ戦②	
	第14回	まとめ① スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
	第15回	まとめ② スカイクロス、インディアカ、フリーテニス、ユニホックの中から各自選択し、グループごとにゲームを実施する。	
授業概要	様々なニュースポーツを1種目につき3時間程度ずつ実施していきます。授業回数の後半は、授業で実施した種目の中から、各個人が好きな種目を選択して実施します。最初の時間にオリエンテーションを実施し受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特になし		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	この時間は様々なスポーツ種目を実施します。これまでにやったことのないスポーツも出てくることでしょう。新たな種目に挑戦することのおもしろさや、身体を動かすことの楽しさを味わってください。生涯楽しんでいけるスポーツと出会えるかもしれません。みなさんがより積極的にスポーツを楽しめるような時間になりたいと思っています。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% ゲームでの観察またはレポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技七（60670）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニングを通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定① 現在の自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	エアロビクス 効果や実施方法について	
	第6回	筋力トレーニング① 自重トレーニングの方法（上半身）	
	第7回	筋力トレーニング② 自重トレーニングの方法（下半身）	
	第8回	トレーニングメニューの作成 各自の体力に合わせたトレーニングメニューを作成する	
	第9回	トレーニング実践① 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第10回	トレーニング実践② 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第11回	トレーニング実践③ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第12回	トレーニング実践④ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第13回	トレーニング実践⑤ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第14回	トレーニング実践⑥ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第15回	体力測定 各種トレーニング効果の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、エアロビクスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技八（60680）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	フィットネストレーニングを通じて楽しく身体を動かしながら自分の体調をチェックしたり体力レベルを維持・増進したりできるような手段を身につける。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業計画について	
	第2回	屋内体力測定 現在の自分自身の体力を把握する	
	第3回	屋外体力測定 現在の自分自身の体力を把握する	
	第4回	ウォーキング、ジョギング ウォーキング、ジョギングの効果や方法、適切なフォームについて	
	第5回	エアロビクス 効果や実施方法について	
	第6回	筋力トレーニング① 自重トレーニングの方法（上半身）	
	第7回	筋力トレーニング② 自重トレーニングの方法（下半身）	
	第8回	トレーニングメニューの作成 各自の体力に合わせたトレーニングメニューを作成する	
	第9回	トレーニング実践① 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第10回	トレーニング実践② 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第11回	トレーニング実践③ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第12回	トレーニング実践④ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第13回	トレーニング実践⑤ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第14回	トレーニング実践⑥ 各自作成したメニューに従い、ウォーキング、ジョギング、エアロビクス、筋力トレーニングを実施	
	第15回	体力測定 各種トレーニング効果の評価	
授業概要	筋力トレーニング、ジョギング、エアロビクスなどを組み合わせて進めていきます。最初のオリエンテーションを実施し、受講者数を決定します。受講者数が決定した段階で実際の実施形態を指示します。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	特に指定しません。ジャージ等の身体を動かせる服装で、グラウンドでの実技の場合には運動用のシューズ、体育館での実技の場合には上履きとは別に体育館用のシューズを必ず準備してください。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自分自身の体調を管理するための知識や方法について学んでください。		
評価方法	平常点60% 主体的な授業参加度 知識40% レポート		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技九（60690）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	自然に触れ合いながら身体を動かす楽しみを味わえるようにする。		
授業計画	第1回	事前指導① 山形の自然について	
	第2回	事前指導② アウトドアスポーツの基本	
	第3回	カヌー①	
	第4回	カヌー②	
	第5回	カヌー③	
	第6回	月山登山①	
	第7回	月山登山②	
	第8回	月山登山③	
	第9回	月山登山④	
	第10回	月山登山⑤	
	第11回	月山登山⑥	
	第12回	フィッシング①	
	第13回	フィッシング②	
	第14回	フィッシング③	
	第15回	まとめ	
授業概要	カヌー、トレッキングなど自然の中で行うスポーツを楽しむ。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。		
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	自然の中で様々な体験をすることで、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。		
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。		
参考文献			
備考			

講義科目名称：スポーツ実技十（60700）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1・2	1	選択必修・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：実技

授業のテーマ及び到達目標	様々なスノースポーツを経験し、その基本的な技術を習得することで、冬期間に行う運動種目として活用できるようにする。
授業計画	<p>第1回 事前指導① 山形の自然について</p> <p>第2回 事前指導② アウトドアスポーツの基本</p> <p>第3回 スノーシュートレッキング①</p> <p>第4回 スノーシュートレッキング②</p> <p>第5回 スノーシュートレッキング③</p> <p>第6回 クロスカントリースキー①</p> <p>第7回 クロスカントリースキー②</p> <p>第8回 クロスカントリースキー③</p> <p>第9回 クロスカントリースキー④</p> <p>第10回 雪板①</p> <p>第11回 雪板②</p> <p>第12回 雪板③</p> <p>第13回 スノーモービル①</p> <p>第14回 スノーモービル②</p> <p>第15回 まとめ</p>
授業概要	冬季野外活動種目であるスノーシュー、スキー、スノーモービル等を体験する。事前、事後指導ならびに二泊三日の西川町月山での宿泊形式（コテージ）で行う。
実務経験及び授業の内容	
時間外学習	国外や国内におけるスポーツの動向や健康に関する情報を文献やメディアなどを通して把握しておく。実施した種目の歴史的、文化的な背景を文献などを通して予習、復習しておく。
テキスト	必要な物品等はオリエンテーションで指示します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	雪山でのスノースポーツを通して、身体を動かす楽しさや爽快感を味わって欲しいと思います。
評価方法	参加状況（60%）とレポート（40%）によって総合的に評価する。
参考文献	
備考	

講義科目名称：健康理論（60710）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	1	選択・教職選択必修
担当教員			
鹿俣 修			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理を行う上で必要となる知識や健康づくりに関する様々な情報や手法を学習する。 ・健康の保持増進をはかり、集団の健康を高めることに寄与する能力と態度を養う。
授業計画	<p>第1回 健康の考え方</p> <p>第2回 生活習慣病と生活様式（ライフスタイル）</p> <p>第3回 運動と健康</p> <p>第4回 発育発達期の身体的特徴と心理的特徴</p> <p>第5回 思春期と健康</p> <p>第6回 壮年期と健康</p> <p>第7回 老年期と健康（加齢に伴う身体の変化）</p> <p>第8回 まとめ</p>
授業概要	各年代において健康に生きていくためには日常生活でどのような点に注意を置き、どのようなライフスタイルを身につければ良いかについて資料等を通して学習していく。
実務経験及び授業の内容	米沢市介護予防推進員養成講座(米沢市)、飯豊町健康づくり事業(飯豊町)での講師の実務経験があり、この経験を生かし健康理論の授業を行う。
時間外学習	授業を踏まえて配布した資料等を今一度読み直し、毎回の授業のノートやメモを整理すること。
テキスト	資料を適宜配布します。
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	
評価方法	期末レポート課題(50%)授業への参加度(50%)で評価します。
参考文献	保健科教育法 吉田瑩一郎 著(教育出版)
備考	

講義科目名称：スポーツ文化論（60720）

授業コード：

英文科目名称：－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2	選択・教職選択必修
担当教員			
比留間 浩介			
			授業形態：講義

授業のテーマ及び到達目標	競技スポーツ（オリンピックやプロスポーツ）と生涯スポーツ（楽しみや健康のためのスポーツ）の2つの側面から、スポーツ界の現状を知り、スポーツの持つ様々な魅力や問題点に触れることで、スポーツの味方や考え方を深める。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	日本におけるスポーツ文化① 部活動	
	第3回	日本におけるスポーツ文化② スポーツクラブ	
	第4回	世界におけるスポーツの歴史	
	第5回	日本におけるスポーツの歴史	
	第6回	古代オリンピック①	
	第7回	古代オリンピック②	
	第8回	近代オリンピック①	
	第9回	近代オリンピック②	
	第10回	日本におけるスポーツ文化③	
	第11回	スポーツとルール	
	第12回	メディアとスポーツ	
	第13回	子どもとスポーツ	
	第14回	健康とスポーツ	
	第15回	まとめ	
授業概要	スポーツに関する様々な内容を取り上げ、講義形式で行う。		
実務経験及び授業の内容			
時間外学習	授業内で配布した資料の復習を行う。		
テキスト	特に指定しません。		
受講生へのメッセージ（授業評価を踏まえた方針など）	みなさんの身近なところから世界に至るまで、スポーツの様々な側面をみることで、これまで以上に深くスポーツを観ることができると思います。みなさんの意見や考えなども聞きながら、様々な見方や考え方を引き出せるよう工夫していきたいと思っています。		
評価方法	授業への参加度（20%）と授業後の小レポート（80%）で評価します。		
参考文献			
備考			